# 法人本部事業報告書

１　法人の目的事業

この法人は、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援するために、次の社会福祉事業を行うことを目的とする。

＜社会福祉事業＞

（1）第一種社会福祉事業

（イ）特別養護老人ホームの経営　　南風・第二南風・花菜風

（2）二種社会福祉事業

（イ）老人デイサービスセンターの経営　デイサービスセンター南風

第２デイサービスセンター南風

（ロ）老人短期入所事業の経営

<公益を目的とする事業＞

（1）居宅介護支援の事業

（2）地域包括支援センターの事業

（3）介護予防支援の事業

＜地域における公益な取組＞

（1）浜松市学習支援事業受託事業「寺子屋しんづ」の運営（民児協との協働）

（2）介護予防教室「楽心出（たのしんで）」の運営支援、体操の指導及び会場提供

（3）南風バンドによる出前講演と音楽、地域住民に対する福祉教育

（4）実習生の受入れ（地域住民に対する福祉教育）

（5）県社協主催「福祉の仕事魅力発見ツアー」ほか講師派遣

＊　秋祭りなどの地域行事やバザール南風（その他：地域への施設提供）などは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、中止となりました。

２　理事会・評議員会の開催

令和２年度における法人の業務を審議・決定するために、次のとおり評議員会及び理事会を開催した。

評議員・評議員会 …… 法人運営に係る重要事項の議決機関
理事・理事会 …… 法人の業務執行の決定機関
監事 …… 理事の職務執行及び法人の財産状況を監査する機関

＜理事会＞

第１回理事会（決議の省略）

（1）開催日　令和２年５月２６日(火)

（2）出席者　理事６名、監事２名

（3）決議事項

第１号議案　令和元年度事業報告（附属明細書）及び会計書類等の承認について
第２号議案　経理規定の一部改正について
第３号議案　役員報酬規程の一部改正について
第４号議案　定時評議員会の開催について（決議の省略）

第２回理事会（決議の省略）

（1）開催日　令和２年１２月２日（水）
（2）出席者　理事６名、監事２名
（3）決議事項
第１号議案　令和２年度第１次補正収支予算について
第２号議案　南風屋上防水工事に係る入札及び入札結果について
第３号議案　陰圧機購入に係る入札及び入札結果について
第４号議案　臨時評議員会の招集について
（4）報告事項
第１号報告　理事長の職務執行状況の報告
第２号報告　令和２年度社会福祉施設等の指導監査結果について
第３号報告　令和２年度事業の中間報告について
第４号報告　新型コロナウィルス感染対策について
第５号報告　新型コロナウィルス感染対策に係る補助金申請について

第３回理事会（決議の省略）

（1）開催日　令和３年３月３日(水)
（2）出席者　理事６名　監事２名
（3）決議事項
第１号議案　令和２年度第２次補正収支予算について
第２号議案　令和３年度資金収支予算について
第３号議案　令和３年度事業計画について
第４号議案　評議員選任・解任委員会規則の一部改正について
第５号議案　令和３年度業務委託契約について
第６号議案　臨時評議員会の招集について（決議の省略）

＜評議員会＞

第１回定時評議員会（決議の省略）

（1）開催日　令和２年６月１０日(水)
（2）出席者　評議員８名　監事２名
（3）決議事項
第１号議案　計算関係書類並びに財産目録の承認について
第２号議案　経理規定の一部改正について
第３号議案　役員報酬規程の一部改正について

第２回評議員会（決議の省略）

（1）開催日　令和２年１２月１６日(水)

（2）出席者　評議員８名

（3）決議事項

第１号議案　令和２年度第１次補正収支予算の承認について

（4）報告事項

第１号報告　理事長の職務の執行状況の報告

第２号報告　新型コロナウィルス感染対策について

第３号報告　新型コロナウィルス感染対策に係る補助金申請について

第４号報告　南風屋上防水工事に係る入札及び入札結果について

第５号報告　陰圧機購入に係る入札及び入札結果について

第３回評議員会（決議の省略）

（1）開催日　令和３年３月１７日(水)

（2）出席者　評議員８名

（3）決議事項

第１号議案　令和２年度第２次補正収支予算について

第２号議案　令和３年度資金収支予算について

第３号議案　令和３年度事業計画について

（4）報告事項

第１号報告　評議員選任・解任委員会規則の一部改訂について

第２号報告　令和３年度業務委託契約について

第３号報告　令和２年度職員採用・離職状況

２　入職者・退職者の状況

| | 採用者数（人） | | | 離職者数（人） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 正職員 | 契約職員 | 合計 | 正職員 | 契約職員 | 合計 |
| 介護職員 | 2（第二） | | 2 | 4（南風・第二・花菜） | 3（デイ・第二・花菜） | 7 |
| 看護職員 | 1（南風） | | 1 | | | |
| 機能訓練指導員 | | | | | | |
| 生活相談員 | 1（包括） | | 1 | 1（デイ） | 1（包括） | 2 |
| 介護支援専門員 | | | | 1（居宅） | | 1 |
| 栄養士 | | | | | | |
| 事務員 | | | | | | |
| その他 | | | | | 1（デイ） | 1 |
| 合計 | 4 | | 4 | 6 | 5 | １１ |

３　年次有給休暇平均取得日数

| 事業所名 | | （南風） | | | （第二南風） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 区分 | 種類 | 取得日数 | 付与日数 | 取得率 | 取得日数 | 付与日数 | 取得率 |
| 介護職員 | 正規 | ２１５.５日 | ４４５.０日 | ４８.４% | ２１０.０日 | ４１８.０日 | ５０.２% |
| | 契約 | １２０.０日 | １９４.５日 | ６１.６% | ８２.０日 | １１９.５日 | ６８.６% |
| 看護職員 | 正規 | １６.０日 | ６０.０日 | ２６.６% | ５８.５日 | ６９.０日 | ８４.７% |
| | 契約 | ２０.０日 | ２０.５日 | ９７.５% | | | |
| その他 | 正規 | ９３.５日 | ２３０日 | ４０.６% | ７０.５日 | １６６.０日 | ４２.４% |
| | 契約 | ３４.５日 | ８４.０日 | ４１.０% | ３１.０日 | ４８.５日 | ６３.９% |
| 事業所 | | （花菜風） | | | （デイサービス） | | |
| 区分 | 種類 | 取得日数 | 付与日数 | 取得率 | 取得日数 | 付与日数 | 取得率 |
| 介護職員 | 正規 | １４４.０日 | ３２４.０日 | ４４.４% | ３４.０日 | ７６.０日 | ４４.７% |
| | 契約 | １１８.５日 | １１９.０日 | ９９.５% | １６６.５日 | ２０９.５日 | ７９.４% |
| 看護職員 | 正規 | ２５.５日 | ６９.０日 | ３６.９% | １５.０日 | １１.０日 | １３６.３% |
| | 契約 | １１.０日 | １１.５日 | ９５.６% | １４.５日 | １０.０日 | １４５.０% |
| その他 | 正規 | １２.０日 | ２１.０日 | ５７.１% | ６７.５日 | １１７.５日 | ５７.４% |
| | 契約 | | | | ２５.５日 | ４０.０日 | ６３.７% |
| 事業所 | | （第２デイサービス） | | | （居宅介護支援） | | |
| 区分 | 種類 | 取得日数 | 付与日数 | 取得率 | 取得日数 | 付与日数 | 取得率 |
| 介護職員 | 正規 | | | | | | |
| | 契約 | １３３.５日 | １８１.５日 | ７３.５% | | | |
| 看護職員 | 正規 | ２７.５日 | ３０.０日 | ９１.６% | | | |
| | 契約 | １７.５日 | １８.５日 | ９４.５% | | | |
| その他 | 正規 | ５０.０日 | １５１.０日 | ３３.１% | ６５.５日 | ２１７.０日 | ３０.０% |
| | 契約 | | | | １１.５日 | ３５.０日 | ３２.８% |
| 事業所 | | （包括支援） | | | （全体） | | |
| 区分 | 種類 | 取得日数 | 付与日数 | 取得率 | 取得日数 | 付与日数 | 取得率 |
| 介護職員 | 正規 | | | | ６０３.５日 | １２６３.０日 | ４７.７% |
| | 契約 | | | | ６２０.５日 | ８２４.０日 | ７５.３% |
| 看護職員 | 正規 | | | | １４２.５日 | ２３９日 | ５９.６% |
| | 契約 | | | | ６３.０日 | ６０.５日 | ９６.９% |
| その他 | 正規 | ６５.５日 | １３１.５日 | ４９.８% | ４２４.５日 | １０３４.０日 | ４１.０% |
| | 契約 | | | | １０２.５日 | ２０７.５日 | ４９.３% |

4　児休業取得者の割合

（1）平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日までの 1 年間に在職中に出産した女性（9 人)のうち、令和 3 年 4 月 1 日までに育児休業を開始した者(8 人)の割合は 88.8%でした。

$$育児休業取得率 = \frac{出産者のうち、調査時点までに育児休業を開始した者の数（8人）}{調査前年度1年間の出産者の数（9人）}$$

（2）上記育児休業開始者の延べ育児休業取得日数は 3，677 日で、平均取得日数は 460 日でした。

（3）育児休業終了後の復職者及び退職者の割合は、復職者 100%で退職者は 0%でした。なお、復職者は「育児短時間勤務」制度又は労働契約の変更により短時間勤務での復職となっています。

5　労働災害の発生状況

令和２年度は「転倒」と腰痛などの「動作の反動・無理な動作」により、休業３日以内２件、同４日以上１件の計３件の労働災害が発生しました。

6　寄附の状況

（1）寄付金

| 寄附者氏名 | 寄附者住所 | 寄附金名 | 金額 | 使途目的 | 受入日 |
|---|---|---|---|---|---|
| 水野和子 | 南区新橋町 | 指定寄附金 | 10,000 | 短期入所 | R2.8.18 |
| 鈴木繁昭 | 南区若林町 | 指定寄附金 | 20,000 | 法人 | R2.9.29 |

（2）寄附物品

| 寄附者氏名 | 寄附者住所 | 寄附物品名 | 使途目的 | 受入日 |
|---|---|---|---|---|
| 浜松茶農業協同組合<br>代表理事組合長　鈴木計芳 | 北区三方原町 | 新茶 | 南風<br>花菜風 | R2.6.24 |
| 静岡茶商工業協同組合<br>専務理事　高瀬英夫 | 静岡市葵区北番町 | ティーバッグ | 南風<br>第二南風 | R2.9.9 |
| 生命保険協会静岡県協会<br>浜松地区会長　梶山浩一 | 静岡市葵区御幸町 | 車椅子 | 第二南風 | R2.12.10 |

7　その他（浜松市学習支援事業受託事業の状況）

令和２年度において、新津地区民生児童委員及び学習支援ボランティアと協働して実施してきました「寺子屋しんづ（浜松市学習支援事業受託事業)」の活動状況は、次のとおりです。

(1)　実施場所　浜松市南区倉松町 598 番地　「サービスセンター南風」

(2)　実施日時　土曜日　13 時 30 分～15 時 30 分

(3) 子どもの状況

| 区　分 | 参加登録人数 | 以下の世帯区分該当人数（再掲） | |
|---|---|---|---|
| | | 生活保護受給世帯 | ひとり親世帯 |
| 小学３年生 | ４人 | ２人 | ３人 |
| 小学４年生 | ２人 | １人 | ２人 |
| 小学５年生 | ７人 | ３人 | ６人 |
| 小学６年生 | ３人 | １人 | ３人 |
| 中学１年生 | ５人 | １人 | ４人 |
| 中学２年生 | ２人 | １人 | １人 |
| 中学３年生 | ２人 | １人 | １人 |
| 合計 | ２５人 | １９人 | ２０人 |

(4) 活動の状況

| 登録者人数 | 開催日数 | 延参加者人数 | 支援員人数 | 補助員人数 | 辞退者人数 |
|---|---|---|---|---|---|
| ２５人 | ４３日 | ４０３人 | ２９８人 | １６６人 | ８人 |

８　所感

令和２年度は、新型コロナウィルス感染症に始まり、新型コロナウィルス感染症に終わった１年でした。

施設入所者・利用者及びその家族、地域のボランティアの方々を始めとして、面会や活動の制限や自粛などをお願いせざるを得ず、これらの方々には大きな負担になったと思います。

法人職員には入所者・利用者等への誠心誠意の対応や、感染防止のための様々な自粛や規制が求められ、精神的・肉体的に大きなストレスを強いることとなってしまいました。

この様な中で、大きな事故等もなく年度末を迎えることができたことは、大変幸せなことであり、この感染症が一日も早く終息することを願うばかりです。

# 特別養護老人ホーム南風　令和２年度事業報告

Ⅰ.総括

令和２年度は『その人らしく』を合言葉に、新しく「承認」のスキルを取り入れ、入居者の生き甲斐、職員の遣り甲斐につながる取り組みを行ってきた。上半期フロアリーダー体制にて支援体制を整えたが、より南風らしさを目指すべく下半期はユニットリーダー体制に再度組み換え、チーム力向上を目標に南風独自の取り組みに努めた。

令和元年度末頃より、新型コロナウイルスの流行により、感染対応マニュアル、BCPの作成、勉強会の開催など感染対策に重点を置いた。入居者の生活を守るべく入居者、職員ともに制限ある１年となったが、高齢者施設で働く職員として、施設全体の感染対策に関する意識があがった。

年間稼働率については、99.5%を目標とし、99.6%と目標を達成することが出来たが、救急搬送や入院者が例年に比べ多く、日頃の入居者の情報共有、急変時の対応等、課題が見えた年にもなった。離職者は年度末に１名あり、離職者ゼロの目標達成には至らなかった。また、有給取得率は73%であった。個人差は今年度も引き続き見られた。

以下各部署の評価を報告する。

1.介護職員

【なずな】

① 茶話会を開き、会の中からそれぞれの入居者のニーズを引き出すことを試みたが、一部の入居者のみの会となってしまった。また、個々の要望に対しては、担当職員が入居者との関わりの中で応えられることについてはケアに反映ができ、想いに向き合う姿勢は１年通しできた。

② 居室掃除表や共有スペースの整理整頓のチェックリストを作り環境整備に努めた。職員同士のコミュニケーションについて、意見交換会という場を設けることができなかった。ユニット職員だけでなく介護チームとしての意見交換の場を作ることで入居者のケアの統一に繋げていく必要がある。

③ 会議内で事業計画の反省を行うことで、自分自身の技術や介護力の見直す機会となり、意識の向上にも繋がった。それぞれが、自分の課題をより明確化することも重要と感じる。

④ 今年度はコロナウイルス感染対策のため家族会の開催ができず、毎月の便りを通じ日頃の生活の様子を伝えることをより強く意識できた。

【すずしろ】

① 主にはユニット会議内で個々の意見を聞き、互いに認め尊重し合うことはできたが、そこから高め合う関係にまでは至らなかった。しかし、職場全体に助け合う雰囲気はあり、気づきの指摘や相談に乗ってもらうことで、なりたい職員の理想像を描くことが出来た。

② 入居者の過ごしやすい環境作りとして、入居者と一緒に居室環境を行った。
職員も自分らしく働くことを目標にコミュニケーションを積極的に取り合うことはできたが、互いの特性を生かすような働きかけまでは至らなかった。

③ 入居者一人一人のニーズに居室担当を中心に耳を傾け、困りごとに関しては解決の糸口を探し実践した。また入居者個々に特性があり、関わりの工夫の多様性を学んだ。

④ コロナ禍において、家族と直接的な交流ができず、今までのような関係作りに努めることができなかった。月に１度家族便りにて様子をお伝えしてきたが、伝えきれなかった部分もあり課題に残った。

【なでしこ】

① 職員同士の意見に耳を傾け、受け止めたうえで自分の意見を伝えることにより、尊重し認め合う関係作りができた。納得しケアを進めることができた。

② 入居者一人一人が過ごしやすい環境を作るため行ってきたが、個々のスペースである居室環境について整えることができなかった。
また、職員にとっても働きやすい環境を作るため多職種協力の元、積極的に業務改善が行えた。

③ 担当入居者についてはなぜそのケアを行っているのかという根拠の説明はできるが、ユニットの中でも１つ１つのケアについて理解が深められていない。そのため統一したケアに至らないところがあった。

④ コロナ禍の中、家族と直接的な関わりは持てなかった。直接的に声を聞ける場として、依頼時の連絡の際にも様子を伝え、家族の想いに寄り添いたい。

【ききょう】

① ケア変更時の周知は記録等で行えたが、24 時間シートの更新が不十分なことが目立ち、24 時間シートを活用したケアの充実化まではいかなかった。

② 刺激のある生活の支援を行うため、レクリエーション活動をあげたがコロナ禍の中、施設内で継続して行える楽しみごととして園芸を行った。毎日の役割となりユニット内の活性化につなげていく。

③ コロナ禍において、面会時の関わりができない状況だったが、毎月の便りの中で日々の関わりや様子を伝えた。

2 看護職員

① 専門職としての役割を担う

疥癬が多発し、疥癬についての知識と感染者への対応を現場に分かりやすく周知した。

感染症の発生

・疥癬　今年度も通常疥癬者が各階に発症

2 階　4 月～12 月の間で 5 名　　3 階　7 月～12 月の間で 3 名

・新型コロナウイルス感染対策

基本的な感染対策の徹底及びマニュアルの再構築

昨年 12 月以降、医療機関から退院時には PCR 検査の依頼

・ケア連携協働

経管栄養（胃瘻）1 名、喀痰吸引　年間延べ 8 名

介護職員の喀痰吸引等実地研修修了者　2 名

② 医務会議の定期開催を行うことで 3 施設の情報の共有や課題が明確化した。
薬剤物品管理の見直しを行い、医療物品の整理整頓を行うことで労働環境の衛生を保つことが出来た。

3.管理栄養士

① 法人各部署・委託業者との意見交換のための機会を設けることは難しかった。
入居者や各部署の意見を聞き、他栄養士（法人・委託業者）と協議しソフト食の方の行事食や手作りおやつの提供が回数は少ないが行えた。

② 令和 2 年 8 月に厚生労働省発表の「HACCP に沿った衛生管理の制度化に関する Q&A」により委託業者と共に「大量調理施設衛生マニュアル」に沿って管理がなされているか確認継続していく。

4.歯科衛生士

① 食事を安全に美味しく食べるための口腔内の環境作りは多職種と連携し実施することができた。

② 個人の口腔機能に合わせてイベント食を提供するなど多職種で必要な視点を話し合う機会をもてた。

③ 入居者の「食べたい」という想いに添えるよう口腔衛生管理を行い、食事に関わる多職種とさらに連携をとり、適切な支援の充実化を行う必要がある。

5.機能訓練指導員

① 入居者、ご家族のニーズを取り入れながら個別機能訓練の実施に取り組めた。意思疎通が困難な入居者の個別機能訓練が手薄になってしまった。

② 入居者の残存機能を活用できるよう多職種と共同しポジショニングの調整の仕方や注意点を伝達できた。

③ 感染対策で体操広場は1回の開催となったが、参加者の生活意欲を引き出すことができた。また、3施設の機能訓練指導員が定期的に集まることはできなかったが、積極的に連絡や相談をする機会は増えた。

6. 相談員

① 情報共有ファイルを作成し、新しい情報を常に把握し共有することができた。しかし、専門職のスキル向上にまで向かわず、力不足を感じる場面が多かった。

② 分業と協同がうまく作用せず、チームとして機能していないことがあり、一からチームを作り上げていくことを考え、上半期、月ごとに南風独自の「チーム力向上」の取り組みを行った。

③ 各事業所の相談員が会議や委員会の運営を行うことで、1つの分野に対しそれぞれが専門性を深める機会をもてた。

④ 稼働率の向上を目指し、各事業所と連携は取れたが、今年は救急搬送や入院で居室を空けることが多かった。日々の関わりの中丁寧な対応を行う中で今後の支援方法を早い段階で確定していくことが現在のコロナ禍での支援に必要と感じた。

⑤ 令和3年度の介護報酬改定に向けて、加算要件に見合うかの知識を身に付けたばかりで精査する準備まで至らなかった。

7. 介護支援専門員

① コロナ禍で本人、家族のサービス担当者会議への参加を促すことはできなかったが、本人や家族の意向をプランに反映できるように努めた。

② ケアプランと24時間シートの連動を強化する必要があると感じた。互いに反映できず、別扱いとなっているため連動方法と現場職員への周知方法を再構築する。

Ⅱ. 入居者の状況

１．入退去状況

| 入退＼月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入居 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 7 |
| 退去 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 7 |

２．退去理由

| 性別＼理由 | 在宅復帰 | 要支援 | 介護保険施設 | 病院 | 死亡（病院） | 死亡（南風） | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 3 | 6 |
| 女 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 計 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 4 | 7 |

３．今年度入居者の入居前の状況

| 性別＼区分 | 家庭 | 介護保険施設 | 福祉施設等 | 医療機関 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 4 | 0 | 1 | 1 | 6 |
| 女 | 6 | 1 | 1 | 0 | 8 |
| 計 | 10 | 1 | 2 | 1 | 14 |

４．年齢別（令和2年3月31日現在）

| 性別＼年齢 | ～64歳 | 65歳～69歳 | 70歳～74歳 | 75歳～79歳 | 80歳～84歳 | 85歳～89歳 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 2 | 1 | 1 | 0 | 3 | 2 |
| 女 | 0 | 2 | 2 | 3 | 3 | 13 |
| 計 | 2 | 3 | 3 | 3 | 6 | 15 |

| 性別＼年齢 | 90歳～94歳 | 95歳～99歳 | 100歳以上 | 計 | 平均年齢 |
|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 6 | 0 | 0 | 15 | 82.7 |
| 女 | 7 | 2 | 3 | 35 | 86.3 |
| 計 | 13 | 2 | 3 | 50 | 85.3 |

５．要介護度別入居者数一覧及び要介護度

【実入居者数】 ※各月末実数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 要介護１ | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 4 | 4 | 4 | 4 | 5 | 5 | 40 |
| 要介護２ | 3 | 2 | 3 | 3 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 3 | 4 | 42 |
| 要介護３ | 18 | 18 | 19 | 20 | 20 | 20 | 18 | 20 | 20 | 20 | 20 | 21 | 234 |
| 要介護４ | 13 | 13 | 15 | 14 | 14 | 14 | 15 | 13 | 12 | 13 | 13 | 12 | 161 |
| 要介護５ | 14 | 15 | 13 | 11 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 9 | 10 | 132 |
| 合計 | 51 | 51 | 52 | 50 | 50 | 50 | 51 | 51 | 50 | 51 | 50 | 52 | 609 |
| 平均介護度 | 3.6 | 3.7 | 3.7 | 3.6 | 3.5 | 3.5 | 3.5 | 3.4 | 3.4 | 3.4 | 3.4 | 3.3 | 3.5 |

【延入居者数】

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 要介護１ | 90 | 93 | 60 | 62 | 62 | 60 | 124 | 120 | 124 | 124 | 145 | 155 |
| 要介護２ | 78 | 62 | 90 | 93 | 124 | 120 | 124 | 120 | 124 | 114 | 87 | 124 |
| 要介護３ | 538 | 558 | 551 | 617 | 620 | 600 | 558 | 569 | 620 | 620 | 580 | 598 |
| 要介護４ | 366 | 380 | 439 | 434 | 434 | 420 | 416 | 368 | 372 | 374 | 377 | 359 |
| 要介護５ | 420 | 436 | 340 | 341 | 310 | 300 | 305 | 297 | 310 | 310 | 261 | 304 |
| 合計 | 1492 | 1529 | 1480 | 1547 | 1550 | 1500 | 1527 | 1474 | 1550 | 1542 | 1450 | 1540 |
| 稼働率（%） | 99.5 | 98.6 | 98.6 | 99.8 | 100 | 100 | 98.5 | 98.2 | 100 | 99.5 | 100 | 99.3 |

6．入院状況

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人数 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 4 | 1 |

| 入院期間 | 10日未満 | 10～20日 | 21日～30日 | 30日以上 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 人数 | 2 | 4 | 2 | 2 | 10 |

※入院日及び退院日を含む

7．外泊(延人数)

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

Ⅲ．入居者の生活状況（令和2年3月31日現在）

1．食事状況

| 区分／性別 | 自立（見守り含） | 一部介助 | 全介助 | 経管栄養 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 10 | 2 | 3 | 0 | 15 |
| 女 | 25 | 5 | 4 | 1 | 35 |
| 計 | 35 | 7 | 7 | 1 | 50 |

2．入浴状況

| 区分／性別 | 見守り/声かけ | 一部介助 | 全介助 | 計 | 一般浴 | 中間浴 | 機械浴（寝浴） | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 0 | 5 | 10 | 15 | 3 | 7 | 5 | 15 |
| 女 | 2 | 15 | 18 | 35 | 13 | 10 | 12 | 35 |
| 計 | 2 | 20 | 28 | 50 | 16 | 17 | 17 | 50 |

3．排泄状況

| 区分／性別 | 自立（排泄前後の確認含） | 誘導介助 | オムツ介助 | 計 | 夜のみオムツ | 膀胱ろう | バルーンカテーテル |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 2 | 6 | 7 | 15 | 1 | 0 | 1 |
| 女 | 3 | 24 | 8 | 25 | 3 | 0 | 1 |
| 計 | 5 | 30 | 15 | 50 | 4 | 0 | 2 |

4．移動状況

| 区分／性別 | 独歩（不安定含） | 杖 | 車椅子 | 車椅子（介助） | シルバーカー | 歩行器 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 2 | 0 | 3 | 10 | 0 | 0 | 15 |
| 女 | 4 | 2 | 7 | 10 | 9 | 3 | 35 |
| 計 | 6 | 2 | 10 | 20 | 9 | 3 | 50 |

5．更衣状況

| 区分／性別 | 自立 | 指示・見守り | 一部介助 | 全介助 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 1 | 1 | 6 | 7 | 15 |
| 女 | 0 | 8 | 13 | 14 | 35 |
| 計 | 1 | 9 | 19 | 21 | 50 |

Ⅳ．実施した行事等

| 行事名 | 月日 | 時間 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 浜松まつり | 5月20日 | 14時から15時 | 職員が浜松まつりの劇練りを再現 |
| 運動会 | 7月 | 13時から15時 | 3階入居者のみで開催 |
| 夏祭り | 8月27日 | 14時から15時 | 職員が浴衣をきて、入居者と盆踊りをする |
| 敬老会 | 9月24日 | 11時から13時 | ケーキを食べて、お祝いする |
| 秋祭り | 11月10日 | 10：30～15：00 | 法人秋祭りに代わる催しとして、2階3階に分かれて、出店やゲームを開いた |
| クリスマスケーキ作り | 12月 | 14：00～15：00 | クリスマスケーキのデコレーションを楽しむ |
| 新年会 | 1月 | 11：00～13：00 | 新年のお祝いをする |
| 節分 | 2月2日 | 14：00～14：30 | 鬼にボーロを投げ、おかしまきをする |

【各ユニット別の行事・レクリエーション】

| | |
|---|---|
| なずな | 誕生レク・おやつ作り・夏祭り・ハロウィーンパーティ・忘年会 |
| すずしろ | 誕生レク・おやつ作り・夏祭り・ハロウィーンパーティ・忘年会 |
| なでしこ | 散歩・誕生レク・クリスマス会 |
| ききょう | 誕生レク・クリスマス会 |

Ⅴ．施設内学習会

| 種類 | 日時 | 内容 | 講師（発表者） |
|---|---|---|---|
| 法人勉強会 | 感染対策のため実施できず | | |
| | 6月<br>ユニット会議 | 事故、ヒヤリハットについての区分 | 特別養護老人ホーム<br>相談員 |
| | 7月15日<br>17：45～18：45 | コロナウイルス感染症対策 | 特別養護老人ホーム<br>相談員 |
| | 7月17日 | | 特別養護老人ホーム |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特養勉強会 | ユニット会議 | 身体拘束について | 相談員 |
| | 10月7.14.21日<br>17：45～19：00 | ターミナルケアについて | 特別養護老人ホーム<br>相談員 |
| | 12月5日<br>17：45～18：45 | 防災・コロナＢＣＰについて | 特別養護老人ホーム<br>相談員 |
| | 12月<br>書面開催 | スピーチロックについて | 特別養護老人ホーム<br>相談員 |
| | 12月<br>各建屋 | 特養コロナ勉強会 | コロナＢＣＰ<br>作成委員会 |
| | 1月<br>書面開催 | 事故報告書について | 特別養護老人ホーム<br>相談員 |
| 学習発表会 | 8月<br>書面開催 | 南風2階：チームワークについて<br>南風3階：意思疎通の難しい方の対応 | 介護職員<br>看護職員<br>相談員 |
| | 12月<br>書面開催 | 第二2階：その人らしい食事<br>第二3階：排泄 | |
| | | 花菜風：思いが伝わる届け方を考える<br>医務：施設看護の向上～3施設統一できる看護について～<br>相談員：接遇<br>機能訓練指導員：機能訓練とＱＯＬ | |
| 職員勉強会 | 7月 | 24時間シート | ユニットリーダー |
| | 8月 | チームケア・チームワーク | ユニットリーダー |
| | 9月 | 口腔ケア | 歯科衛生士 |
| | 1月 | 救急蘇生 | 医務 |
| | 2月 | 認知症ケア | ユニットリーダー |

Ⅵ. 実習・体験学習受け入れ

【介護福祉士単位実習】

| 学　校　名 | 人数 | 期　間 |
|---|---|---|
| 豊橋創造大学短期大学 | 2名 | 10月12日～11月6日の16日間 |
| 浜松修学舎高校 | 3名 | 8月20日～9月4日、12月4日～18日 |
| 聖隷クリストファー大学 | 4名 | 8月25日～9月22日 |

【介護体験】

| | | |
|---|---|---|
| 学生 | 1名 | 11月14日、21日 |
| 一般 | １名 | 3月15日、16日 |

【施設見学】

令和2年度は新型コロナウイルス感染対策のため、施設見学は中止とした。

Ⅶ. 苦情受付件数

0件

Ⅷ. ヒヤリハット・事故報告

（事故）

1. 事故内訳

| | |
|---|---|
| 転倒・転落 | 39 |
| 薬剤 | 10 |
| 外傷 | 6 |
| エスケープ | 0 |
| 異食 | 2 |
| 誤飲 | 1 |
| その他 | 19 |
| 合計 | 77 |

2. 所見

| | |
|---|---|
| 異常なし | 46 |
| 創傷 | 2 |
| 打撲 | 5 |
| 内出血 | 4 |
| 骨折 | 1 |
| その他 | 19 |
| 合計 | 77 |

3. 発生場所

| | |
|---|---|
| 居室 | 38 |
| トイレ | 4 |
| リビング | 26 |
| 廊下 | 2 |
| 浴室 | 1 |
| その他 | 6 |
| 合計 | 77 |

（１）分類

5. 介護保険事業者事故報告（浜松市へ報告事例）

| | 事故内容 | 所見 | 状況 | 賠償保険 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 転倒 | 経過観察 | フロアで転倒している | なし |
| 2 | 転倒 | 骨折 | フロアで転倒している | 賠償金 |
| 3 | 転倒 | 経過観察 | ベッドと壁の間に挟まっている | 見舞金 |
| 4 | 転倒 | 経過観察 | 居室で転倒している | なし |
| 5 | 転倒 | 経過観察 | ベッドと壁の間に挟まっている | 見舞金 |
| 6 | 転倒 | 経過観察 | フロアで転倒している | なし |
| 7 | 転倒 | 経過観察 | フロアで転倒している | 見舞金 |
| 8 | 義歯破損 | 修理 | 職員の手技不足により破損 | 賠償金 |
| 9 | 転倒 | 経過観察 | 居室で転倒している | 見舞金 |

## 短期入所生活介護　令和２年度事業報告

Ⅰ.総括

令和２年度は、新型コロナウイルスの感染拡大やデイサービスでノロウイルスの感染が拡大し、ショートステイと利用の併用者が多く、感染対策の観点から利用を控えて頂いた事もあり、稼働率の低下が顕著となった。

昨年度からの新型コロナ対策のため、今後のサービス提供方法について検討を重ねた。その結果、特養入居者と居住空間を共有している特性を加味し、コロナ感染対策が必要な期間については、特養入居者との居住空間を分け、制限の多い利用をお願いする事となった。その事により利用中の生活の質の確保が困難となった。

また、ケアパレットの導入により、荷物チェックの仕組みを再構築し、チェック表をなくし、パソコン内で画像を管理し簡素化に図った。

【年間稼働率】

| ４月 | ５月 | ６月 | ７月 | ８月 | ９月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | １月 | ２月 | ３月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 56% | 81% | 82% | 80% | 80% | 77% | 81% | 88% | 80% | 83% | 80% | 75% |

介護保険事業者事故報告（浜松市へ報告事例）

０件

# 特別養護老人ホーム第二南風　令和２年度事業報告

Ⅰ.総括

令和２年度は職員同士が認め合い１つのチームを作る『承認』を合言葉に、職員１人ひとりの意識も高まった。多職種で認め合うことで、各職種の専門性の向上にもつながり職員の技術、知識の向上に繋がった。その結果、職員がやりがいを感じて働く環境へと変化していき、チームケアの確立と施設全体の向上となった。

また、『挑戦』をモットーにカンファレンスを積極的に開催し、多職種が連携し専門的な話し合いを重ねることで、入居者の生活の質の向上に努めた。

新型コロナウイルス感染対策として制限がある中で、家族と密に連絡を取り合い、毎月の便りで多職種からの現況報告やＬＩＮＥ動画の送付など、自由な面会がかなわない状況での信頼関係の構築に努めた。また、感染対策・対応に苦慮した一年だったが、法人全体で連携し、コロナ対応マニュアル・感染発生時 BCP が完成し、感染が疑われる事例に迅速に対応ができた。

稼働率については、99.5％を目標としていたが、99.3％という結果になった。今年度は入院者や退居者が続いた際に空室が続き、次期入居者への支援の働きかけが遅くなったことが要因とされる。また、有給取得率は約 65％となった。前年度に比べ、取得日数が向上するも個人差も見られた。

以下の各部署の評価を報告する。

1.介護職員

【あやめ】

① ユニット会議内や出勤時に職員同士で入居者に対して些細な変化に対する気づきや、要望の実行について等意見交換をすることが増え、信頼関係の構築に繋がった。しかし、実施までには至らないことがあった。また、勉強会に参加をすることで、ユニット職員個々の介護技術の向上に繋がった。

② ケアの検討をする際に、ユニット職員で話が進まない時もあったが、他職種に意見を聞き、情報共有することでケアに反映することが出来た。しかし、ケアの評価するまでに時間がかかってしまい、ケアの統一に時間がかかった。

③ ユニット職員同士のコミュニケーションは積極的にとっていたが、他ユニット職員とのコミュニケーションはあまり積極的にとれていなかった。ユニットに限らず、他ユニットからの意見も取り入れながら、会議内だけでなく積極的に話し合いをする雰囲気作りが課題となる。

④ チームケアを意識して、居室担当を中心にケアの見直しが出来るようになった。このことから職員１人ひとりが常に考える姿勢を身につけることの大事さを学んだ。

【さつき】

① ユニット職員同士での積極的なコミュニケーションは図ることが出来たが、他ユニットの職員とあまり話せず、支え合いが不十分だった。また、ユニット職員同士のささいな変化にも気が付く目を養う必要性を痛感した。

② 意思疎通ができる入居者には何をしたいか聞いて要望を実行することはできたが、意思疎通が困難な入居者に対しては、要望を聞き取ることができなかった。入居者を尊重したケアを提供できるよう、要望を引き出すために様々な方法を行い、また職員の接遇の見直す必要があると実感した。

③ ケア変更の検討については、多職種と連携し随時変更することはできたが、その後の評価まで至らなかった。変更後の評価が大事であることを周知する必要性がある。また、職員１人ひとりが今提供しているケアがこのままで良いのか常に考え、多職種と連携を図るような発信力を身につける必要性を感じた。

【つばき】

① ユニット職員同士がお互いの意見を認め合いながらコミュニケーションはとれており、相談しやすいチームに構築することが出来た。情報共有の為、ユニット連絡ノートを活用したが他ユニット職員まで積極的に活用することができなかった。また、出勤時に随時相談することが増えた。

② 入居者のニーズを把握することは出来ていたが、ケアに反映することが難しく、意思疎通が困難な入居者に対してのニーズの把握が難しかった。1つ1つのケアの根拠や目的に関しては、しっかりと理解をしたうえでケアの提供が出来た。実践の評価には行う事はできたが、結果が曖昧になることもあり、今後評価まで行うサイクルの確立が必要だと感じる。

③ 茶話会やレクリエーションの内容等を職員１人ひとりが発信する力が必要だと感じ、今年度は新型コロナウイルスの感染対策で限られた中で新しい生活様式に沿って施設内で入居者が楽しめるようなレクリエーションを意識して提供することが出来た。

【かりん】

① 日々のケアの内容に職員各々が今のケアのままで良いのか疑問を持って職員同士がコミュニケーションを取りながら情報交換を行った。しかし、ケアの決定については、今以上に職員自身がどうしていきたいのかと考える力を養う必要性があると実感した。

② 新型コロナウイルス感染対策で面会が以前の様に行えない中、お便りで日々の様子を細かく伝えることで家族とのコミュニケーションを図った。また、カンファレンス時や、本人の要望への対応時などは積極的に家族にも協力を得て情報交換を行った。

③ 24時間シート活用については、入居者に統一されたケアを提供できるよう変更点を可視化したり掲示物を活用しながら情報共有をしたが至らない点があった。多職種と連

携を図り、統一されたケアを提供するにはチーム力を高める必要があると痛感した。

④　毎月、入居者が四季を感じられるようにユニットフロアの設えをユニット職員同士が相談しながら行う事が出来た。しかし、入居者に季節を感じるものはなにかをあまり聞くことが出来なかったため、ニーズを聞き取る時に併せて設えを決める等、四季を感じて楽しんでもらえるよう提供していきたい。

【かえで】

①　職員がお互いを認め合い、ケアに対して分からないところは聞くという事を心掛けた。業務に精一杯な時期もあったが、職員１人ひとりが心にゆとりをもって業務にあたるよう意識することで職員の行動が変わってきた。その為、徐々に働きやすい環境に変化していき、職場環境を整えることに繋がった。

②　ケアの見直しについて、居室担当が中心となって考えることも増え、居室担当という責任感を持つようになった。それに伴い、多職種との連携や周知も積極的に行えるように職員１人ひとりが成長したと実感した。

③　新型コロナウイルス感染対策により外出はできなかったが、限られた生活の中で提供できる範囲でニーズに対応し、職員も入居者に対し、提供したいという想いも強くなった。その結果、入居者が喜ぶ顔が増えた。

④　ユニット会議内での話し合いや入居者と話す時間を大切にしながらどのようなケアを提供したいか等、入居者のやりたい事や出来ることを見直すことで、要望を把握しケアに反映することが出来た。また、職員が常に考える意識を身につけることが出来た。

【ぼたん】

①　今年度初めは職員の異動があり、お互いが遠慮がちになり、信頼関係を構築することが出来なかったが、徐々にコミュニケーションが増えユニット職員が出勤時にはお互い声を掛け合い、情報共有・相談し合える関係がこの１年で構築された。
また、状態変化のある入居者が続いたため日頃からケアについて、業務内容等を話し合い、改善に繋がった。

①　他職種と連携を図りながら、多様な視点を取り入れ、個々のケアを検討し適切なケアが提供できるよう、ケアについてなぜこのケアを行われているのかと会議内で話し合い、担当職員のみならずユニット全体で話し合い見直す事が出来た。しかし、ケア変更までに時間がかかってしまうこともあり、迅速に対応していく必要性を実感した。

②　新型コロナウイルス感染対策により家族を交えてのレクリエーションや外出が行えない１年だったが、毎月の茶話会を実施した。入居者の意見を取り入れた茶話会を実施することで入居者からも満足の声を聴くことができた。

③　職員各々が担当入居者に対し、密にコミュニケーションを図り、入居者が望む暮らしを提供できるよう考えることで、会議での内容にも変化が出てきた。ケア変更時、ユ

ニット職員だけで情報共有され、他職員や多職種へ情報共有やケアの統一が出来ていなかった。その為、連絡ノートの活用や口腔リハビリを徹底する等、ケアの統一をするために相談し工夫を行った。

2.看護職員

① 嘱託医との連携を図るために、回診リストや処方箋は複数の看護師で確認を行い、計画的に回診準備を進める事が出来た。また体調不良者が出た場合は、予測指示を確認しつつ、嘱託医とメールでの連絡をとり対応をした。

② 看護業務の専門性を高めるために、処置については、ケース記録の確認、不明な点は確認することで統一された処置を行う事が出来た。また、新型コロナウイルス感染対策により外部研修に参加できなかったものの、1 人はリモート研修に参加することは出来た。

③ 多職種と連携を強化するために、カンファレンスや会議へ参加をし、多職種と意見交換を行った。また、新型コロナウイルス感染対策により毎日の消毒や換気、職員への手指消毒への声掛けを積極的に行った。ケア連携継続研修は、介護職員 26 名を対象にチェックリスト等の記述で施行。また、薬剤セットのミスの発見が続き、薬局との話し合いの場を設け、大きな事故にならないよう未然に防ぐことが出来た。

④ 新型コロナウイルス感染対策により面会が中止等、制限がある中で看護職員の異動もあり、家族と顔を合わせることが困難だったが、家族便りで体重や血圧、状態変化を報告した。また、体調不良時には、家族と細目に連絡をとり合い、状態報告を心掛けた。しかし、家族が入居者に会えないという事もあり細かく対応することに大事さを実感した。

3.管理栄養士

① 各事業所の栄養士と細目に連絡を取り合い、情報共有が出来た。施設によって異なっていた必要書類を見直し、統一した書式に変更することで業務の円滑化に繋がった。

② 委託給食会社の配膳ミスはあったが、管理栄養士に連絡をもらうことで困難することなくスムーズに対応が出来た。また、給食会議で配膳ミスについて随時、検討することでミスが減った。

③ 多職種との連携を意識して、食事に関する情報収集を行う事は出来たが、入居者の今までの生活背景が把握しきれていないため、今後も入居者 1 人ひとりがその人らしさを配慮した栄養ケアの取組を継続していく。

4.機能訓練指導員

① 入居者のニーズを聞き、多職種と連携を取りながら実現が出来るように随時、意見交換等を行った。家族のニーズについては、生活相談員や介護支援専門員と相談しなが

ら意向確認を行うことを意識した。

② 入居者個々の日常生活機能の確認、維持、向上については、介護職員と声を掛け合いながら、入居者のＡＤＬの把握をし、適切なリハビリを考察し、入居者の暮らしの中に生活リハビリを積極的に取り入れた。

③ 各事業所の機能訓練指導員と適時、連絡を取り合ったが、情報交換や情報共有は不十分であり、また自発的に連絡を取り合うことがなく、受容することが多かった。専門性の向上をする為には、自分から動くということが大切であると痛感した。

④ 新型コロナウイルス感染対策により特養３施設で協働し、機能訓練の参加者を集め、集団体操やレクリエーションを実施する予定だったが、中止となり実施できなかった。

5.歯科衛生士

① 食事を安全に美味しく食べるための口腔内の環境作りは多職種と連携し実施することができた。

② 個人の口腔機能に合わせてイベント食を提供するなど多職種で必要な視点を話し合う機会をもてた。

③ 入居者の「食べたい」という想いに添えるよう口腔衛生管理を行い、食事に関わる多職種とさらに連携をとり、適切な支援の充実化を行う必要がある。

6・生活相談員

① 職員１人ひとりに積極的に声をかけ、職員の得意分野や苦手分野を把握し、職員がその人らしく働けるようなチーム体制が築き始めたが、強固な体制までは至っておらず、継続してチームケアの構築をし、施設全体の向上を図る必要性がある。

② 新型コロナウイルス感染対策により限られた生活の中で、毎月の家族便りや来訪時、面会時等に家族の意向を聞き、入居者も随時、意向を聞きとることで適切な支援が提供できるよう努めた。また、入居者や家族の意向を介護職員にも周知することでケアに反映することが出来た。

③ 多職種と分業をしつつ、職員各々がチャレンジ精神を持って連携を図ることで、各職種が専門性のあるケアを提供に繋がった。しかし、充実までは至っていないため、積極的に連携を図りながらケアを提供することを継続する必要性がある。

④ 各事業所の相談員と細目に連絡を取り合い、協働しながら会議や委員会の運営を担うことで各分野について専門性を高めることが出来た。

⑤ 令和３年度の介護報酬改定に向けて、加算要件等の知識を把握することが遅くなり、自施設での加算を精査するまで至らなかった。

⑥ 各事業所の相談員との情報共有ファイルを作成したことで、より情報共有が行いやすくなり、各々の意見交換にも繋がった。相談員としてのスキルの向上の為、知識を増やすことが大事であると痛感した。

⑦　入退去者の発生時には、多職種と各事業所と連絡を取り合い、稼働率 99.5%を目指したが、今年度は入院者や退居者が続き、空床が続いた事もあった。速やかに入退去者の支援を行うことが必要であると実感した。

7.介護支援専門員

①　ケアプラン変更時、入居者、家族または関係者の意向確認を行うことは出来たが、ケアプランへの反映が不十分な部分もあったが、ケアプラン会議やケア変更時には、多職種と意見交換を行い、検討内容をケアプランに反映することが出来た。

②　ケアプラン会議での内容の周知については、ユニット会議やユニットリーダーや居室担当職員への連絡は適宜、行うことが出来た。また、ケアプランと 24 時間シートの連動については、積極的に 24 時間シートを更新するよう居室担当への声掛けを行った。

Ⅱ.入居者の状況

１．入退去状況

| 入退＼月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入居 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 4 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 13 |
| 退去 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 3 | 2 | 0 | 1 | 1 | 3 | 14 |

２．退去理由

| 性別＼理由 | 在宅復帰 | 要支援 | 介護保険施設 | 病院 | 死亡（病院） | 死亡（第二南風） | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 |
| 女 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | 5 | 11 |
| 計 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | 8 | 14 |

３．今年度入居者の入居前の状況

| 性別＼区分 | 家庭 | 介護保険施設 | 福祉施設等 | 医療機関 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 3 | 0 | 1 | 0 | 4 |
| 女 | 6 | 0 | 1 | 2 | 9 |
| 計 | 9 | 0 | 2 | 2 | 13 |

４．年齢別（令和3年3月31日現在）

| 性別＼年齢 | ～64歳 | 65歳～69歳 | 70歳～74歳 | 75歳～79歳 | 80歳～84歳 | 85歳～89歳 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 0 | 0 | 0 | 4 | 1 | 4 |
| 女 | 0 | 1 | 1 | 5 | 4 | 18 |
| 計 | 0 | 1 | 1 | 9 | 5 | 22 |

| 性別＼年齢 | 90歳～94歳 | 95歳～99歳 | 100歳以上 | 計 | 平均年齢 |
|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 5 | 1 | 0 | 15 | 86歳9か月 |
| 女 | 9 | 4 | 1 | 43 | 87歳9か月 |
| 計 | 14 | 5 | 1 | 58 | 87歳6か月 |

５．要介護度別入居者数一覧及び要介護度

【実入居者数】 ※各月末実数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 要介護１ | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 36 |
| 要介護２ | 4 | 4 | 4 | 4 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 37 |
| 要介護３ | 21 | 19 | 17 | 18 | 18 | 17 | 18 | 16 | 15 | 16 | 16 | 18 | 209 |
| 要介護４ | 19 | 20 | 20 | 20 | 21 | 22 | 24 | 26 | 26 | 27 | 27 | 27 | 279 |
| 要介護５ | 12 | 13 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 170 |
| 合計 | 60 | 60 | 60 | 61 | 61 | 61 | 63 | 61 | 60 | 61 | 61 | 62 | 731 |
| 平均介護度 | 3.5 | 3.6 | 3.6 | 3.6 | 3.7 | 3.7 | 3.7 | 3.8 | 3.8 | 3.8 | 3.8 | 3.8 | 3.7 |

【延入居者数】

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 要介護１ | 120 | 124 | 120 | 124 | 124 | 120 | 108 | 60 | 62 | 62 | 56 | 31 |
| 要介護２ | 120 | 124 | 120 | 94 | 93 | 90 | 93 | 90 | 93 | 62 | 56 | 62 |
| 要介護３ | 630 | 589 | 510 | 542 | 528 | 490 | 508 | 467 | 465 | 452 | 424 | 536 |
| 要介護４ | 570 | 620 | 600 | 620 | 642 | 631 | 680 | 751 | 806 | 837 | 742 | 788 |
| 要介護５ | 360 | 403 | 450 | 465 | 465 | 450 | 441 | 408 | 432 | 434 | 392 | 434 |
| 合計 | 1800 | 1860 | 1800 | 1845 | 1852 | 1781 | 1830 | 1776 | 1858 | 1847 | 1670 | 1851 |
| 稼働率（%） | 100 | 100 | 100 | 99.1 | 99.5 | 98.9 | 98.3 | 98.6 | 99.8 | 99.3 | 99.4 | 99.5 |

6．入院状況

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人数 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 |

| 入院期間 | 10日未満 | 10～20日 | 21日～30日 | 30日以上 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 人数 | 3 | 3 | 2 | 1 | 9 |

※入院日及び退院日を含む

7．外泊(延人数)

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

Ⅲ．入居者の生活状況（令和2年3月31日現在）

1．食事状況

| 区分／性別 | 自立（見守り含） | 一部介助 | 全介助 | 経管栄養 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 14 | 2 | 1 | 0 | 16 |
| 女 | 27 | 4 | 12 | 0 | 43 |
| 計 | 41 | 6 | 13 | 0 | 59 |

2．入浴状況

| 区分／性別 | 見守り/声かけ | 一部介助 | 全介助 | 計 | 一般浴 | 中間浴 | 機械浴（寝浴） | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 1 | 10 | 5 | 16 | 13 | 1 | 2 | 16 |
| 女 | 1 | 28 | 14 | 43 | 34 | 3 | 6 | 43 |
| 計 | 2 | 38 | 19 | 59 | 47 | 4 | 8 | 59 |

3．排泄状況

| 区分／性別 | 自立（排泄前後の確認含） | 誘導介助 | オムツ介助 | 計 | 夜のみオムツ | 膀胱ろう | バルーンカテーテル |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 2 | 10 | 4 | 16 | 3 | 0 | 1 |
| 女 | 6 | 29 | 8 | 43 | 5 | 0 | 0 |
| 計 | 8 | 39 | 12 | 59 | 8 | 0 | 1 |

4．移動状況

| 区分／性別 | 独歩（不安定含） | 杖 | 車椅子 | 車椅子（介助） | シルバーカー | 歩行器 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 1 | 0 | 10 | 4 | 0 | 1 | 16 |
| 女 | 4 | 1 | 15 | 18 | 4 | 1 | 43 |
| 計 | 5 | 1 | 25 | 22 | 4 | 2 | 59 |

5．更衣状況

| 区分／性別 | 自立 | 指示・見守り | 一部介助 | 全介助 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 1 | 3 | 8 | 4 | 16 |
| 女 | 7 | 6 | 16 | 14 | 43 |
| 計 | 8 | 9 | 24 | 18 | 59 |

Ⅳ．実施した行事等

| 行事名 | 月日 | 時間 | 内容 |
|---|---|---|---|
| スイカ割り | 7月26日 | 14：00～15：00 | 各ユニットでスイカ割を行う。 |
| 花火大会 | 8月18.24.25.26日 | 19：00～20：00 | 各階に分かれ、少人数のグループで手持ち花火や吹上花火をに楽しむ。 |
| 敬老会 | 9月21日 | 14：00～15：00 | 各ユニットでプレゼントを渡し、ケーキを食べる。 |
| 焼き芋 | 10月14.15日 | 13：30～15：00 | 各階に分かれ、第二南風玄関やベランダで焼き芋を食べる。 |
| 秋祭り | 11月18日 | 11：30～16：00 | チョコバナナ等の出店や手品、よさこいの催し物を開催する。 |
| クリスマス会 | 12月25日 | 14：00～15：00 | 各ユニットで職員がサンタクロースに扮してプレゼントを渡す。クリスマスケーキを食べる。 |
| 忘年会 | 12月19日 | 14：00～15：00 | ビールに見立てたゼリーを食べたり、年末大抽選会を実施。 |
| 新年会 | 1月12.19日 | 14：00～15：30 | たこ焼きを食べたり、獅子舞やよさこいの催し物を行う。 |
| 節分 | 2月2日 | 14：00～15：00 | 各階に分かれ、職員が鬼に扮し豆まきを実施。 |

【各ユニット別の行事・レクリエーション】

| | |
|---|---|
| つばき | 誕生日レク（プレゼント）、おやつ作り |
| あやめ | 誕生日レク（プレゼント）、おやつ作り |
| さつき | 誕生日レク（プレゼント）、おやつ作り |
| ぼたん | 誕生日レク（プレゼント）、おやつ作り |
| かりん | 誕生日レク（プレゼント）、おやつ作り |
| かえで | 誕生日レク（プレゼント）、おやつ作り |

Ⅴ．施設内学習会

| 種類 | 日時 | 内容 | 講師（発表者） |
|---|---|---|---|
| 法人勉強会 | 感染対策の為、実施できず | | |
| 特養勉強会 | 6月<br>ユニット会議 | 事故、ヒヤリハットについての区分 | 特別養護老人ホーム<br>相談員 |
| | 7月15日<br>17：45～18：45 | コロナウイルス感染症対策 | 特別養護老人ホーム<br>相談員 |
| | 7月17日<br>ユニット会議 | 身体拘束について | 特別養護老人ホーム<br>相談員 |
| | 10月7.14.21日<br>17：45～19：00 | ターミナルケアについて | 特別養護老人ホーム<br>相談員 |
| | 12月5日<br>17：45～18：45 | 防災・コロナＢＣＰについて | 特別養護老人ホーム<br>相談員 |
| | 12月<br>書面開催 | スピーチロックについて | 特別養護老人ホーム<br>相談員 |
| | 12月<br>各建屋 | 特養コロナ勉強会 | コロナＢＣＰ<br>作成委員会 |
| | 1月<br>書面開催 | 事故報告書について | 特別養護老人ホーム<br>相談員 |
| 学習発表会 | 8月<br>書面開催 | 南風2階：チームワークについて<br>南風3階：意思疎通の難しい方の対応 | 介護職員<br>看護職員<br>相談員 |
| | 12月<br>書面開催 | 第二2階：その人らしい食事<br>第二3階：排泄 | |
| | | 花菜風：思いが伝わる届け方を考える<br>医務：施設看護の向上～3施設統一できる看護について～<br>相談員：接遇<br>機能訓練指導員：機能訓練とＱＯＬ | |
| 職員勉強会 | 6月 | 24時間シート | ユニットリーダー |
| | 9月・10月 | 内服 | 医務・<br>ユニットリー |
| | 12月 | 口腔衛生 | 歯科衛生士 |

Ⅵ．実習・体験学習受け入れ

【介護職場体験】

| | | |
|---|---|---|
| 福祉人材バンク | 2名 | 8月28日・8月31日 |

【施設見学・福祉のセミナー等】

| 名称 | 日時 | 分類 | 担当 |
|---|---|---|---|
| 福祉のお仕事魅力発見セミナー新津中学校 | 6月19日 | セミナー | 川島施設長 |
| 福祉のお仕事魅力発見セミナー中ノ町小学校 | 6月22日 | セミナー | 川島施設長 |
| 福祉のお仕事魅力発見セミナー広沢小学校 | 7月3日 | セミナー | 川島施設長 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 福祉のお仕事魅力発見セミナー和地小学校 | 10月15日 | セミナー | 川島施設長 |
| 企業講和新居高校 | 11月16日 | セミナー | 川島施設長 |
| ゲストスピーカー静岡県立短期大社会福祉学部 | 12月7日 | セミナー | 川島施設長 |

※令和2年度は、新型コロナウイルスの影響で施設見学等施設内で実施する事業が全て中止となりまし

Ⅶ. 苦情受付件数　2件

| 月日 | 申立人 | 内容 | 対応 |
|---|---|---|---|
| 7月 | 家族 | 機能訓練指導員から入居者本人の携帯電話に突然、連絡が来た。個人的に教えたわけでもなく、どうやって電話番号を知ったのか聞くも明確な返答がなく、その後も連絡が来て困る | 本人、ご家族に機能訓練指導員に注意をし、以後改めるよう約束をしたことを伝え、謝罪。 |
| 11月 | 家族 | 体調管理についてケアの内容を明確にして欲しい。質問や希望に対して明確な返答が欲しい。1人の職員に伝えた内容がケアプランに反映されているのか不安。ケア内容の変更時には報告が欲しい。入居後同じようなことがあり、明確な返答が欲しい。 | 体調管理についいぇは、月2回の体重測定を行い、食事摂取量を毎月の請求書に同封し、状況報告をする。また、口腔ケアの充実と口腔機能訓練を実施。高カロリーゼリーを補食として1日2回提供をする。多職種と連携し、食事量や体重のみならず、生活全般からケアの内容を見直し随時カンファレンスを開催する。 |

Ⅷ.ヒヤリハット・事故報告

1.事故内訳

| | |
|---|---|
| 転倒・転落 | 102 |
| 薬剤 | 48 |
| 外傷 | 25 |
| エスケープ | 0 |
| 異食 | 13 |
| 誤飲 | 4 |
| その他 | 32 |
| 合計 | 224 |

2.所見

| | |
|---|---|
| 異常なし | 137 |
| 創傷 | 35 |
| 打撲 | 6 |
| 内出血 | 7 |
| 骨折 | 3 |
| その他 | 36 |
| 合計 | 224 |

3.発生場所

| | |
|---|---|
| 居室 | 94 |
| トイレ | 12 |
| リビング | 91 |
| 廊下 | 2 |
| 浴室 | 9 |
| その他 | 16 |
| 合計 | 224 |

（1）分類

5.介護保険事業者事故報告（浜松市へ報告事例）

| | 事故内容 | 所見 | 状況 | 賠償保険 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 転倒 | 胸椎圧迫骨折 | 居室で転倒し、腫れと痛みあるため、受診 | 見舞金 |
| 2 | 転倒 | 左上腕骨折 | フロアで転倒し、痛みあり救急搬送 | 見舞金 |
| 3 | 転落 | 左大腿骨転子部骨折 | 痛み、腫れが強くあり受診 | 見舞金 |
| 4 | 転倒 | 左頭頂部裂傷 | トイレで転倒し、頭部を裂傷、出血あり受診 | なし |
| 5 | 転倒 | 右前頭部裂傷 | フロアで転倒し、頭部を裂傷、出血あり受診 | 見舞金 |
| 6 | その他 | 私物破損 | 職員が洋服を洗濯してしまい、縮んでしまった | 損害賠償 |

# 令和２年度　特別養護老人ホーム花菜風　事業報告

Ⅰ．総括

特別養護老人ホーム花菜風開設より 10 年目の本年度は、更なる「花菜風らしさ」を追求することを目標に掲げたが、新型コロナウイルス感染症の流行により制限のある中、入居者の安全を確保しつつ生活の質を落とさないよう、その人らしく生活できるような援助を模索し苦慮した１年となった。

前年度から取り組んでいる花菜風独自の事故防止委員会の活動を継続し、事故についてその都度検討を重ね、事故の減少に取り組むことができた。ヒヤリハットの報告件数が増えたことで個々の事故の対策をしっかりと立てることができ、大きな事故へ繋がる前にヒヤリハットの段階で防ぐことができるようになった結果だといえる。

また、本年度は施設内勉強会に力を入れ、リーダー層だけでなく中堅職員も勉強会の開催運営に関わる機会を作った。施設内勉強会の充実により、各職員の専門性の向上、他職種・他ユニットとの連携を高めるとともに、入居者の個別援助や安全な生活環境を整えることができたと感じる。本年度は退職者が 2 名あり施設間・施設内の異動が発生したが、職員が入れ替わったことで新たな視点が加わった。認め合い指摘し合える環境が整ったことにより、意見交換がしやすくなり各職員の視野を広げることに繋がった。承認スキルを活用できるよう、継続して取り組んでいく。

本年度は年間稼働率の目標を 99.5%と掲げたが、実績としては 99.1%と目標を下回り、入退院や急な退去が発生した時の円滑な対応が必要と実感した。また、有給取得率については 60%台にとどまり、職員によって取得率に差が出る結果となった。

以下、各部署の評価を報告する。

１．介護職員

【花水木】

① レクリエーションや日常的関わりの中でコミュニケーションを取る事を意識し、利用者の言葉を多く聞き出すことができた。承認の言葉を伝える事で利用者の居場所と生活を共にしているという意識が高まった結果であり、職員のコミュニケーション技術の向上に繋がった。来年度はより意識を高め、職員のモチベーション・入居者の QOL 向上に繋げていく。

② コミュニケーションノートを作成し、入居者の発言や職員に対する感謝の言葉を記入する方法で実践した。可視化されることで職員のモチベーションの向上に繋がったと同時に、入居者のニーズを聞き出すことができ、レクリエーションを充実させることができた。成功体験が各職員の自信となり、チームワークを構築することができた。

【花菱草】

① 職員同士で気軽に話し合える関係作りができたが、入居者のニーズの共有が足りず、迅速なケアに活かすことができなかった。業務だけでなく、一人一人の暮らしを支えている意識を高く持つ必要があった。

② 接遇マナー目標として職員のお互いの良い所を伝え合う事を掲げたが、実行することが難しかったため軌道修正をして、1か月毎にユニットで統一した承認の目標を立ててみんなで取り組む形に変更した。小さな目標から始めたが、みんなで1つの目標に向かって取り組むことでコミュニケーションにも繋げることができた。

③ コロナ禍で家族会は開催できなかった。家族便りにて入居者の様子を伝えていたが、もっと細やかに情報共有ができる体制を整える必要があったと感じた。

④ 環境整備のチェックリストを活用して清潔な環境づくりに取り組むことができた。来年度は評価・反省点を活用していけるように取り組みたい。

【花菖蒲】

① 日々の関わりの中で入居者一人一人に深く関わることができなかった。どういった関わりがその人にとって良いのか、個別に寄り添えるような関わりが必要だった。

② 入居者の発言や行動に対して認め尊重するケアに繋げることができなかった。個別の声掛けや、入居やの訴えを受け止める姿勢に課題が残る。

③ それぞれの入居者の介護度に差があるが、職員一人一人が毎日の入居者の状態に応じたケアができていた。工夫して日常的なケアを実践することができたが、経過を追って1つの課題を突き詰めることは不十分だった。

2．看護職員

① 定期的に看護会議を実施し業務調整の話し合いができ、前年度より時間外勤務の短縮ができた。お互いに声掛けをし、相手がどの業務をしているのか把握しながら仕事ができた。

② 体調不良時等は早急に医師と連絡を取り早めに対応することができた。コロナ禍で家族と顔を合わせる機会が減ってしまったが、相談員とも情報共有をして速やかに連絡することができた。回診前に介護職員の見解を聞くよう努めたが、ゆっくり話しをする時間をとる事ができなかった。医師とはコミュニケーションが取れ、施設で行える医療ケアの実践はできたが、薬処方忘れがあり今後の課題である。

3．管理栄養士

① 各事業所の栄養士と細目に連絡を取り合い、情報共有が出来た。施設によって異なっていた必要書類を見直し、統一した書式に変更することで業務の円滑化に繋がった。

② 委託給食会社の配膳ミスはあったが、管理栄養士に連絡をもらうことで困難すること

なくスムーズに対応が出来た。また、給食会議で配膳ミスについて随時、検討することでミスが減った。

③ 多職種との連携を意識して、食事に関する情報収集を行う事は出来たが、入居者の今までの生活背景が把握しきれていないため、今後も入居者１人ひとりがその人らしさを配慮した栄養ケアの取組を継続していく。

４．歯科衛生士

① 食事を安全に美味しく食べるための口腔内の環境づくりは他職種と連携し実施することができた。

② 個人の口腔機能に合わせてイベント色を提供する等他職種で必要な視点を話し合う機会をもてた。

③ 入居者の「食べたい」という思いに添えるよう口腔衛生管理を行い、食事に関わる他職種とさらに連携をとり、適切な支援の充実化を行う必要がある。

５．機能訓練指導員

① ＡＤＬを落とさないよう訓練内容を検討、また入居者のニーズに合わせた訓練を実施することができた。今後は入居者の声をアンケートを通して機能訓練内容に取り入れ、入居者の意欲向上を図りたい。

② 入居者居者の身体機能に合わせたリハビリを実施した。ポジショニングやシーティングをユニット職員相談のもと、随時検討し実施することができた。入居者にとって過ごしやすい環境を今後も作っていく。

③ 予定していた体操広場は、コロナ禍で１回しか行うことができなかった。3 施設の機能訓練士の連携を高め各施設の悩み解決、訓練内容の向上などを目標に行っていく。

④ コロナ禍で面会制限があり、３ヶ月に１度個別訓練機能計画を提示し直接報告・同意をいただくのが困難だったため、家族の理解を深められるよう来年度に向け努めていく。

６．生活相談員

① 面会制限が続き、家族とは電話やお便りでのやり取りが主であった。直接顔を合わせる機会が少ない中で入居者の様子を伝えること、信頼関係を築くことが難しかった。

② 各事業所の相談員と事例を共有し意見交換をしながら施設運営に取り組んだ。

③ 声をかけやすい関係作りを意識したが、職員とのコミュニケーションをなかなかとることができなかった。

④ 入居者や各ユニットの状態について他職種との情報共有をこまめに行い、実際に現場の援助に携わり入居者と関わる事で施設全体の把握に努めた。

⑤ 急な退去発生時に、次の入居まで期間が開いてしまうことが多かった。日頃から施設

全体の状況把握を確実にするとともに、待機者の情報収集を円滑に行う必要があった。

⑥ 会議や委員会の運営に積極性を持って関わることができなかった。

⑦ 加算の精査に取り組むことができなかった。令和 3 年度の改定に向けての情報収集にとどまった。

7．介護支援専門員

① 限定的ではあるが、介助現場に入る事で入居者の言葉・思いを引き出し、モニタリングやアセスメントを行いプランに反映することができた。反面、コロナ禍で家族との直接的な関わりが少なく寄り添うことに難しさを感じた。

② 援助内容の周知徹底は、ユニット会議の中で共有することで達成することができた。24 時間シートとケアプランを連動することは今取り組み始めている。他職種と連携してプランの浸透を図りたい。

Ⅱ. 入居者の状況

1．入退去状況

| 入退＼月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入居 | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 |
| 退去 | 1 | 1 | 3 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 |

2．退去理由

| 性別＼理由 | 在宅復帰 | 要支援 | 介護保険施設 | 病院 | 死亡（病院） | 死亡（南風） | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 女 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 5 | 8 |
| 計 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 5 | 8 |

3．今年度入居者の入居前の状況

| 性別＼区分 | 家庭 | 介護保険施設 | 福祉施設等 | 医療機関 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 女 | 5 | 0 | 1 | 1 | 7 |
| 計 | 6 | 0 | 1 | 1 | 8 |

4．年齢別（令和2年3月31日現在）

| 性別＼年齢 | ～64歳 | 65歳～69歳 | 70歳～74歳 | 75歳～79歳 | 80歳～84歳 | 85歳～89歳 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 女 | 0 | 0 | 1 | 4 | 3 | 4 |
| 計 | 0 | 0 | 1 | 4 | 4 | 5 |

| 性別＼年齢 | 90歳～94歳 | 95歳～99歳 | 100歳以上 | 計 | 平均年齢 |
|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 1 | 1 | 0 | 4 | 89.8 |
| 女 | 7 | 5 | 1 | 25 | 88.8 |
| 計 | 8 | 6 | 1 | 29 | 88.9 |

5．要介護度別入居者数一覧及び要介護度

【実入居者数】 ※各月末実数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 要介護１ | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 要介護２ | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 28 |
| 要介護３ | 10 | 10 | 11 | 11 | 11 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 137 |
| 要介護４ | 8 | 9 | 11 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 118 |
| 要介護５ | 8 | 7 | 6 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 6 | 6 | 6 | 6 | 70 |
| 合計 | 30 | 30 | 31 | 29 | 29 | 30 | 30 | 30 | 29 | 29 | 29 | 29 | 355 |
| 平均介護度 | 3.6 | 3.6 | 3.6 | 3.6 | 3.6 | 3.6 | 3.6 | 3.6 | 3.7 | 3.7 | 3.7 | 3.7 | 3.6 |

【延入居者数】

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 要介護１ | 30 | 31 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 要介護２ | 90 | 93 | 90 | 93 | 93 | 90 | 93 | 90 | 31 | 31 | 28 | 31 |
| 要介護３ | 300 | 310 | 308 | 336 | 341 | 336 | 348 | 338 | 372 | 372 | 336 | 372 |
| 要介護４ | 212 | 265 | 292 | 310 | 310 | 300 | 310 | 280 | 310 | 310 | 280 | 310 |
| 要介護５ | 224 | 198 | 151 | 155 | 155 | 127 | 132 | 150 | 186 | 186 | 168 | 186 |
| 合計 | 856 | 897 | 841 | 894 | 899 | 853 | 883 | 858 | 899 | 899 | 812 | 899 |
| 稼働率（%） | 98.3 | 99.7 | 96.6 | 99.4 | 100 | 98 | 98.2 | 98.6 | 100 | 100 | 100 | 100 |

6．入院状況

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人数 | 0 | 1 | 2 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| 入院期間 | 10日未満 | 10～20日 | 21日～30日 | 30日以上 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 人数 | 3 | 1 | 1 | 0 | 5 |

※入院日及び退院日を含む

7．外泊(延人数)

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

Ⅲ．入居者の生活状況（令和2年3月31日現在）

1．食事状況

| 区分 / 性別 | 自立（見守り含） | 一部介助 | 全介助 | 経管栄養 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 1 | 2 | 1 | 0 | 4 |
| 女 | 16 | 3 | 6 | 0 | 25 |
| 計 | 17 | 5 | 7 | 0 | 29 |

2．入浴状況

| 区分 / 性別 | 見守り/声かけ | 一部介助 | 全介助 | 計 | 一般浴 | 中間浴 | 機械浴（寝浴） | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 0 | 3 | 1 | 4 | 0 | 3 | 1 | 4 |
| 女 | 3 | 12 | 10 | 25 | 5 | 10 | 10 | 25 |
| 計 | 3 | 15 | 11 | 29 | 5 | 13 | 11 | 29 |

3．排泄状況

| 区分 / 性別 | 自立（排泄前後の確認含） | 誘導介助 | オムツ介助 | 計 | 夜のみオムツ | 膀胱ろう | バルーンカテーテル |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 0 | 3 | 1 | 4 | 2 | 0 | 0 |
| 女 | 1 | 16 | 8 | 25 | 1 | 0 | 3 |
| 計 | 1 | 19 | 9 | 29 | 3 | 0 | 3 |

4．移動状況

| 区分 / 性別 | 独歩（不安定含） | 杖 | 車椅子 | 車椅子（介助） | シルバーカー | 歩行器 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 1 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 4 |
| 女 | 3 | 1 | 2 | 14 | 5 | 0 | 25 |
| 計 | 4 | 1 | 2 | 16 | 6 | 0 | 29 |

5．更衣状況

| 区分 / 性別 | 自立 | 指示・見守り | 一部介助 | 全介助 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 0 | 0 | 3 | 1 | 4 |
| 女 | 1 | 2 | 13 | 9 | 25 |
| 計 | 1 | 2 | 16 | 10 | 29 |

Ⅳ．実施した行事等

| 行事名 | 月日 | 時間 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 夏祭り | 8月24日 | 10：30～15：00 | ユニットごとにフロアーで天ぷらを揚げたり寿司を握ったりして手作りの昼食を楽しむ。炭坑節を踊る |
| 敬老会 | 9月21日 | 14：00～15：00 | ユニットごとで長寿の紹介をする。メッセージカードを渡しお祝いをする |
| 秋祭り | 11月9日 | 13：00～15：00 | 法人秋祭りの縮小版として花菜風で開催、食事の後に職員による出し物やバザーやパン屋を楽しむ。 |
| クリスマス | 12月25日 | 14：00～15：00 | クリスマスケーキのデコレーションを楽しむ |
| 忘年会 | 12月11日<br>12月18日<br>12月22日 | 昼食とおやつ | ユニットごとに職員の出し物等を楽しむ |
| 初詣 | 1月 | 随時 | 2階共有スペースに鳥居・賽銭箱・おみくじを設置し神社を設営。個々に絵馬を書き、お参りに行く |
| 書初め | 1月 | 14：00～15：00 | 各ユニットごとに時間を設け、書初めを実施 |
| 新年会 | 1月 | 14：00～15：00 | 各ユニットごとに新年の挨拶をし、職員の出し物や福笑い等を楽しむ |
| 節分 | 2月2日 | 14：00～15：00 | 職員が鬼に扮し、各ユニットごとに豆まきを実施 |

【各ユニット別の行事・レクリエーション】

| | |
|---|---|
| 花水木 | 誕生レク（プレゼントを渡す、お寿司、等）・食事作り・季節のおやつ作り |
| 花菱草 | 誕生レク（プレゼントを渡す、ケーキを食べる、等）・おやつ作り |
| 花菖蒲 | 誕生レク（プレゼントを渡す、等）・おやつ作り・物作り |

Ⅴ．施設内学習会

| 種類 | 日時 | 内容 | 講師（発表者） |
|---|---|---|---|
| 法人勉強会 | 感染対策のため実施できず。 | | |
| | 6月<br>ユニット会議 | 事故、ヒヤリハットについての区分 | 特別養護老人ホーム<br>相談員 |
| | 7月15日 | | 特別養護老人ホーム |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特養勉強会 | 17：45～18：45 | コロナウイルス感染症対策 | 相談員 |
| | 7月<br>ユニット会議 | 身体拘束防止について | 特別養護老人ホーム<br>相談員 |
| | 10月7.14.21日<br>17：45～19：00 | ターミナルケアについて | 特別養護老人ホーム<br>相談員 |
| | 12月5日<br>17：45～18：45 | 防災・コロナＢＣＰについて | 特別養護老人ホーム<br>相談員 |
| | 12月<br>書面開催 | スピーチロックについて | 特別養護老人ホーム<br>相談員 |
| | 12月<br>各建屋 | 特養コロナ勉強会 | コロナＢＣＰ<br>作成委員会 |
| | 1月<br>書面開催 | 事故報告書について | 特別養護老人ホーム<br>相談員 |
| 学習発表会 | 8月<br>書面開催 | 南風2階：チームワークについて<br>南風3階：意思疎通の難しい方の対応 | 介護職員<br>看護職員<br>相談員 |
| | 12月<br>書面開催 | 第二2階：その人らしい食事<br>第二3階：排泄 | |
| | | 花菜風：思いが伝わる届け方を考える<br>医務：施設看護の向上～3施設統一できる看護について～<br>相談員：接遇<br>機能訓練指導員：機能訓練とＱＯＬ | |
| 職員勉強会 | 4月 | 接遇マナー | 介護職員 |
| | 5月 | 口腔ケア・食事 | 介護職員、歯科衛生士 |
| | 6月 | 個別ケア | 介護職員 |
| | 7月 | 介護技術（1～3年目） | 介護職員 |
| | 8月 | 介護技術（3年目以上） | 介護職員 |
| | 10月 | 認知症ケア | 介護職員 |
| | 3月 | 看取り | 介護職員 |

VI. 花菜風運営推進会議

| 月日 | 参加者 | 内容 |
|---|---|---|
| 5月21日、7月26日<br>9月19日、11月26日<br>1月21日、3月18日<br>※新型コロナウイルス | 浜松市健康福祉部介護保険課職<br>地域包括支援センター新津の職員<br>地域密着型介護老人福祉施設入所者<br>生活介護について知見を有する者 | 活動状況、入居者状況、入居申込者、状況従業者の状況等の報告・評価、令和元年度事業報告、令和2年度事業計画、意見・要望等。 |

| | | |
|---|---|---|
| 感染症拡大防止の為<br>全て書面開催 | 入居者、入居者家族、地域住民の代表者<br>事務局（施設長、生活相談員） | |

Ⅵ. 実習・体験学習受け入れ

0件

Ⅶ. 苦情受付件数

0件

Ⅷ. ヒヤリハット・事故報告

1. 事故内訳

| | |
|---|---|
| 転倒・転落 | 99 |
| 薬剤 | 22 |
| 外傷 | 12 |
| エスケープ | 1 |
| 異食 | 4 |
| 誤飲 | 4 |
| その他 | 25 |
| 合計 | 167 |

2. 所見

| | |
|---|---|
| 異常なし | 105 |
| 創傷 | 6 |
| 打撲 | 4 |
| 内出血 | 4 |
| 骨折 | 1 |
| その他 | 47 |
| 合計 | 167 |

3. 発生場所

| | |
|---|---|
| 居室 | 72 |
| トイレ | 21 |
| リビング | 53 |
| 廊下 | 6 |
| 浴室 | 7 |
| その他 | 8 |
| 合計 | 167 |

4. 介護保険事業者事故報告（浜松市へ報告事例）

| | 事故内容 | 所見 | 状況 | 賠償保険 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 外傷 | 皮膚剥離 | 入浴後左足首上に裂傷見られ受診 | 見舞金 |
| 2 | 転倒 | 骨折 | ロアーで転倒し右大腿部腫れ見られ受 | 見舞金 |

# 令和２年度　デイサービスセンター事業報告

1.　運営総括

今年度は、当初より新型コロナ感染予防のためデイサービスの利用を差し控える利用者が実人数で１３人前後あって、非常に苦しいスタートを切ることになりました。

また活動内容においても大きく影響を受けました。毎月来所していただいていた大正琴やアコーディオン、フラダンス等の慰問ボランティアのお断り、外部講師に助けていただいていた詩吟・ビデオ鑑賞のサークル活動中止、各事業所間の交流を断つため導入したゾーニングの体制による理事長の歌唱の中止等、当事業所はレクリエーション活動や趣味活動を大きな柱とするデイサービスであったため、とても厳しい運営を強いられた１年間でした。

＜趣味活動＞

・ 書道クラブ　毎週水･木曜日

４～８人が継続的に参加され、字を書いて「楽しむ」ということを大切に取り組んできました。

・ 生け花　　月１回木曜日

２～４人が参加されています。スタッフの指導のもと自分なりに活けていただき、デイルームに飾っておくことで皆さんに鑑賞してもらっています。

・ 詩吟

新型コロナの影響で１年間中止となっています。

・ 手芸　　毎週水曜日

2～4人が継続的に参加されています。刺繍等作成しました。

・ 歌唱　　毎週金曜日

新型コロナ感染予防により歌唱が中止となったため、歌唱に代わるものとしてカラオケを実施しています。また浜松市の感染者数が減少した７月の１ヶ月間だけ理事長の歌唱活動をしました。１６～２５人が毎回参加しています。

・ フラワーアレンジメント　　月１回火曜日

１１～１３人が参加されていました。誰でも簡単に出来るので、花が好きな方には評判の良い活動となっています。

・ 音楽クラブ

毎月第４火曜日に開催しました。トーンチャイム等の楽器を使って、利用者自らが合奏を楽しむという活動をしています。１０～１２人前後の利用者が参加してくださっています。

・ 銭太鼓サークル

月２回土曜日実施予定ですが、新型コロナ感染者数が減少した７月に１回だけ開催（参加者５人）することができました。

・ ビデオ鑑賞

新型コロナの影響で１年間中止となっています。

・ 新津はたら倶楽部

社会参加や社会貢献ができる機会を提供し、やりがいを感じることで「認知症になるのを遅らせる」「認知症になっても進行を穏やかにする」ことを目的とした有償ボランティア活動として９月に立ち上げました。４人の利用者が登録してくださいました。活動内容としては一般家庭の草むしりや洗車等です。１０～１２月の３ヶ月間で１０回の活動をしました。

※外仕事なので１～３月は寒さのため休止しています。

＜機能訓練＞

① 個別機能訓練加算Ⅰの種目

・ 下肢筋力トレーニング　・エルゴメーター（自転車こぎ）　・歩行訓練　・立位保持

② 拘縮予防　・ウエイトトレーニング

③ 個別機能訓練加算Ⅱの種目

・ 入浴訓練　・排泄訓練　・買い物訓練

④ その他の機能訓練

・ 嚥下体操

＜体制＞

利用延人員は今年度 9,720 人（令和元年度は 10,510 人）と大きく減らしてしまいました。事業規模の計算に当たっては６/７（1～3 月は７/7）とされ 8,589 人となります。また４月～２月までの１１ヶ月間における１ヶ月当りの平均利用者数は 714.5 人となり、令和３年度は通常規模（400～750 人）の運営体制となりました。

**年間利用者数**

| 区分 | 延人員 | 換算人員 | 6／7 | 月平均 |
|---|---|---|---|---|
| 4月 | 818 | 816.00 | 699.43 | 699.43 |
| 5月 | 840 | 835.75 | 716.36 | 707.89 |
| 6月 | 903 | 895.25 | 767.36 | 727.71 |
| 7月 | 896 | 889.50 | 762.43 | 736.39 |
| 8月 | 861 | 859.50 | 736.71 | 736.46 |
| 9月 | 872 | 869.00 | 744.86 | 737.86 |
| 10月 | 853 | 850.00 | 728.57 | 736.53 |
| 11月 | 777 | 774.50 | 663.86 | 727.45 |
| 12月 | 829 | 826.25 | 708.21 | 725.31 |
| 1月 | 675 | 670.75 | 670.75 | 719.85 |
| 2月 | 664 | 661.25 | 661.25 | 714.53 |
| 3月 | 732 | 730.00 | 730.00 | 715.82 |
| 合計 | 9,720 | 9,677.75 | 8,589.79 | |

※1～3月は休業日があるため7／7計算です。

※1 月から急激に利用者数の減ったのは 12 月･1 月に死亡者、入院者が多数あったためです。

2. 利用者定員

一般型　45名（日曜日のみ10名）

※日曜日の利用者が1月から1名だけという日が続いたために3月1日より日曜日の営業を取り止めにしました。

3. デイ職員研修

施設内集団研修は、原則的にデイ会議（毎月第３月曜日）のときに実施していましたが、前期は新型コロナ感染予防のため会議を短時間で終わらせる必要があり実施していませんでした。しかし、後期に入り認知症リハビリを重視したデイサービスに作りかえる必要性から職員研修に取り組んでいます。

| 月　日 | 時　　間 | 研修テーマ | 参加人数（講師含） |
|---|---|---|---|
| 11 月 15 日 | 18:00～18:30 | 音楽療法と瞑想 | 11名 |
| 12 月 21 日 | 17:50～18:15 | 運動療法と作業療法 | 10名 |
| 2 月 19 日 | 18:30～19:00 | バリデーションについて | 12名 |
| 3 月 15 日 | 18:30～19:00 | デュアルタスクトレーニングとは | 14名 |

4.　行事･クラブ活動･慰問等

行事

11月24日　みかん狩り
11月25日　みかん狩り
11月27日　みかん狩り
12月24日　クリスマス会
12月25日
から12月31日　忘年会
1月　6日　初詣（神賀留神社）

クラブ活動

| | | |
|---|---|---|
| ビデオ鑑賞 | 活動日：毎月第２・３月曜日 | コロナで中止 |
| 詩　吟 | 活動日：毎月第１・３週火曜日（月２回） | コロナで中止 |
| 音楽クラブ | 活動日：毎月第４火曜日 | |
| フラワーアレンジメント | 活動日：毎月１回火曜日 | |
| 手　芸 | 活動日：毎週水曜日 | |
| 書道クラブ | 活動日：毎週水曜日・木曜日 | |
| 生け花 | 活動日：毎月第４木曜日 | |
| 歌　唱 | 活動日：毎週金曜日 | コロナで中止 |
| 銭太鼓 | 活動日：毎月第２・４土曜日 | コロナで中止 |
| 新津はたら倶楽部 | 活動日：地域から依頼のあったとき | |

慰問　新型コロナ感染予防のため1年間中止

5.　地域支援活動

新津地区の中高年齢者層を対象にした「介護予防サークル楽心出（たのしんで）」に場所の提供及び運動指導者派遣（日・火・木曜日の午前及び午後）をしてきましたが、新型コロナの影響によりサークル活動が休止となっています。

※浜松市の感染者数が減少した７月の１ヶ月間だけ活動をしています。

6.　その他

赤字解消の一環として、利用者に「選ばれるデイ」となることを目的に５月からスタッフ７名によるイノベーション会議を立ち上げて、目標とするデイサービスの形を模索してきました。会議は５月～２月までで計１７回開催し、次のように決定してきました。

最近の傾向を見るとリハビリ神話が根付いていて、どこのお宅でもご家族が「（特に足の）リハビリをして欲しい」と言ってきます。南風を見ても新規利用者の入り口が身体機能のリハビリに特化した第２デイサービスになってきています。やはり第１デイのようなレクリエーションや趣味活動を柱にしたデイサービスは人気がないようです。そこで「認知症８００万

人時代」を見据えて目標とするデイの形を「在宅生活の継続をコンセプトにして、認知症予防リハビリと車椅子レベルあるいは寝たきりの方を対象にした立位・立ち上がり訓練を中心としたデイサービス」としました。

＜プログラムの変更＞

- 認知症予防リハビリを重点的に実施していくため、従来行ってきた集団体操・ゲームを廃止する。
- 午前中の作業を廃止し、多種多様な脳トレという形で実施していく。
- 趣味活動の中でも認知症予防リハビリとして発展的解消できるものは内包していく。
- 主に車椅子レベルの利用者を対象にして、在宅生活継続の要となる排泄・入浴動作を中心とした生活機能訓練を導入する。

① 実施する認知症予防リハビリ
- 回想法
- 音楽療法
- 園芸療法
- 芸術療法
- 作業療法（手芸を中心とする）
- 瞑想
- 脳トレ
- 運動療法（コグニサイズ中心）

② 身体機能
- 下肢筋力トレーニング
- 立位立ち上がり訓練
- 関節可動域訓練

③ 在宅生活継続訓練（生活機能訓練）
- 排泄動作訓練
- 入浴動作訓練
- 買い物動作訓練

＜プログラム変更取組プロセス＞

① ８月～10 月
- イノベーション会議内で認知症予防リハビリ学習及び導入する認知症予防リハビリの取捨選択。

② 11 月～2 月
- 認知症予防リハビリの勉強会（全スタッフ）
- 日課の作成及び１ヶ月程度の期間の実施内容を準備する。

③ 3 月 8 日～
- 試験的実施をする中で微調整を行う。

④ 4 月 1 日～
- 完全実施

# デイサービスの日課表及び職員勤務体制

| 時間 | 日課 | スタッフの動き | レク1 | レク2 | 頭の体操 | リハ1 | リハ2 | リハ | 外介助 | 入浴1 | 入浴2 | 入浴3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8:30 | | ミーティング | | | | | | | | | | |
| 8:45 | 迎え | 送迎<br>受入準備 | | | | | | | | | | |
| 9:45 | バイタル　朝の会 | 挨拶　バイタル　排泄 | バイタル<br>挨拶 | バイタル<br>挨拶 | デイノート<br>整理 | バイタル | バイタル | バイタル | 入浴準備<br>バイタル | 入浴準備<br>バイタル | 入浴準備<br>バイタル | 入浴準備<br>バイタル |
| 10:00 | 入浴<br>趣味活動<br>機能訓練 | 入浴介助<br>作業の準備<br>エルゴ、下肢筋トレ | 作業<br>片付け | 作業<br>片付け | バイタル<br>作業<br>片付け | 作業<br>機能訓練 | 作業<br>機能訓練 | 作業<br>機能訓練<br>片付け | 入浴開始 | 入浴開始 | 入浴開始 | 入浴開始 |
| 11:30 | | 排泄介助 | 休憩 | 休憩 | 嚥下体操<br>食事介助 | | | | 食事介助 | 休憩 | 食事介助 | 食事介助 |
| 11:45 | 嚥下体操 | 嚥下体操 | | | | 休憩 | 休憩 | 休憩 | | | | |
| 12:00 | 昼食 | 昼食準備、食事介助 | | | | | | | | | | |
| 12:30 | 口腔ケア | 歯みがき・昼食片付け | 口腔ケア | 口腔ケア | 休憩 | | | | 休憩 | 口腔ケア | 休憩 | 休憩 |
| 13:00 | 学習療法 | 学習療法の実施<br>利用者と雑談等 | | | | 学習療法 | 学習療法 | 学習療法 | | | | |
| 13:30 | 集団体操 | 体操・　入浴介助<br>デイ・ノート記入 | 体操 | 体操<br>歩行訓練 | | 機能訓練<br>（採点） | 掃除 | トイレ掃除 | 入浴開始 | 入浴開始 | 入浴開始 | 入浴開始 |
| 14:00 | ゲーム | ゲーム等 | ゲーム等 | ゲーム等 | レク補助 | | レク補助 | レク補助 | | | | |
| 15:15 | おやつ<br>頭の体操 | おやつ用意<br>頭の体操 | デイノート<br>記入 | デイノート<br>記入 | 頭の体操 | | | | デイノート<br>記入 | デイノート<br>記入 | デイノート<br>記入 | デイノート<br>記入 |
| 16:35 | 終わりの会<br>送り | 挨拶<br>送迎<br>フロア-残り<br>（掃除、明日の準備） | 挨拶 | 挨拶 | トイレ誘導 | トイレ誘導 | トイレ誘導 | トイレ誘導 | トイレ誘導 | トイレ誘導 | トイレ誘導 | トイレ誘導 |
| 17:15 | | ミーティング | | | | | | | | | | |
| 17:30 | | | | | | | | | | | | |

# 令和２年度　第２デイサービスセンター事業報告

１．運営総括

今年度は当初から新型コロナの影響を受けてのスタートとなりました。4 月・5 月と感染を恐れて８名前後の利用者が利用を中断しましたが、非常事態宣言期間終了後の 6 月からほとんどの利用者が利用を再開してくださっています。

第 2 デイサービスでは今後やってくるであろう第２波により事業が営業中止となった場合、利用者の身体機能レベルの大きな低下が予測されることから、今期の事業計画「家族と協力して自宅でもセルフによる機能訓練の実施」を予定より前倒しで取り組み「在宅訓練メニュー」を作成し、8 月に利用者一人ひとりに説明・配布しました。3 ヶ月後にモニタリングをしたところ 55%の利用者が自宅でも実施して下さっているということでした。

〈機能訓練〉

機能訓練は利用者全員を 2 グループに分けて、午前午後ＡとＢのプログラムを互いに入れ替える形態で行ってきました。

プログラムＡ

| 時間 | 訓　練　名 | | |
|---|---|---|---|
| 20分 | ① | 上下肢・体幹のストレッチ | |
| 10分 | ② | 棒体操（関節可動域訓練） | |
| 15分 | ③ | ウエイトトレーニング | |
| 10分 | 休憩・お茶 | | |
| 25分 | ④ | 下肢筋力トレーニング | 立位・立ち上がり訓練 |
| 10分 | ⑤ | コグニサイズ | 上肢・嚥下訓練 |

プログラムＢ

| 訓練名 | 訓練対象者 |
|---|---|
| 歩行訓練 | ほぼ全員 |
| 自転車こぎ | ほぼ全員 |
| 関節可動域訓練 | 26人 |
| 個別機能訓練Ⅱ（生活機能） | 希望者25人 |
| ホットパック | 13人 |
| メドマー | 3人 |
| マット運動<br>（頭部挙上、腹筋、お尻上げ、ｸﾞｰﾊﾟｰ体操<br>ﾊﾟﾋﾟｰﾎﾟｼﾞｼｮﾝ、膝曲げ、足上げ、お尻歩き） | 21人 |

〈認知症予防〉

・脳トレ

認知機能の改善には効果が見られないが、認知症の予防に大きな効果があるということからプログラムＢの空いた時間を利用して習字、硬筆習字、ぬり絵、間違い探し、ナンプレ等個別に好きなものを選択していただき取り組んできました。

・コグニサイズ

コグニサイズは、軽度の認知症の方においては認知機能の改善が見られるということから、下肢筋力トレーニングの後引き続き踏み台昇降をしながら実施してきました。

〈体制〉

利用延人員は今年度１０，２６０人（３１年度は９，４７６人）ですが、事業規模の計算に当たっては４月～２月までの11ヶ月間における１ヶ月当たりの平均利用者数によることから８４５.８４人となり、令和３年度は引き続き大規模１での運営体制となります。

**年間利用者数**

| 区分 | 利用延人員 | 換算人員 | 月平均 |
|---|---|---|---|
| ４月 | 770 | 765.50 | 765.50 |
| ５月 | 709 | 703.25 | 734.38 |
| ６月 | 851 | 847.50 | 772.08 |
| ７月 | 921 | 919.00 | 808.81 |
| ８月 | 881 | 878.50 | 822.75 |
| ９月 | 899 | 895.25 | 834.83 |
| １０月 | 900 | 898.00 | 843.86 |
| １１月 | 855 | 852.50 | 844.94 |
| １２月 | 891 | 887.75 | 849.69 |
| １月 | 823 | 820.75 | 846.80 |
| ２月 | 838 | 836.25 | 845.84 |
| ３月 | 922 | 914.00 | 851.52 |
| 合計 | 10，260 | 10，218.25 | |

2.　利用者定員

４０名　　※１日当たり利用者数　３３.１０人

3.　職員研修

職員研修は原則デイ会議のある第１火曜日に開催していますが、今年度は新型コロナ感染防止への対応として会議時間を短くする必要があったことから、職員研修の開催数が予定の６回から２回へと減っています。

| 月　日 | 時　間 | 研修テーマ | 参加人数（講師含） |
|---|---|---|---|
| 6 月 2 日 | 18：45～19：15 | 本人の視点に基づく入浴ケア | 19 名 |
| 3 月 2 日 | 18：00～19：00 | ﾃﾞｭｱﾙﾀｽｸﾄﾚｰﾆﾝｸﾞとは | 17 名 |

4.　その他

赤字解消の一環として、利用者に「選ばれるデイ」となることを目的に、６月からスタッフ７名によるイノベーション会議を立ち上げて、日課のプログラム見直しをしました。会議は６月～２月までで計１５回開催し、次のように決定してきました。

①　日課の流れは変更しない。

②　機能訓練プログラムの質を落とさないようにして「楽しさ」を追加する。

③　プログラムＢにおける時間内に空いている時間があっても脳トレも行わずボーッとしている利用者の対応として、ただ座っているだけで参加できるような機器を購入する。

④　ベッド上での関節可動域訓練（利用者の多くはマッサージと思っているし、本当に必要な方は数少ないのが現状）を希望する利用者が多いが、個別機能訓練Ⅱ（生活機能）の実施者数増加のため介護職員が簡単なマッサージを習得し、本来関節可動域訓練が必要でない方は介護職員が対応していく。

（対応方法及び結果）

②については、運動をしながら頭を使うコグニサイズは楽しんで参加されている方が多いことから、同じ多重課題法でも転倒防止を目的とするデュアルタスクトレーニングを導入することにしましたが、この４月からの介護報酬改定における「個別機能訓練は５人程度の小集団を対象として機能訓練指導員が直接実施」しなくてはならないこととなり、導入は一時保留となってしまいました。

③については、フットダンベル、足浴器（温風式）、フットマッサジャーをそれぞれ１台ずつ購入し、何もしていない方に声かけをしてみましたが、やはり利用の拒否が多く効果は見られませんでした。しかし、ほとんどの訓練項目に参加している利用者は興味を示し、フットマッサジャーや足浴器を継続して利用されています。

④については、介護職員等がマッサージの基本から手技まで習得するためプロの方に講師を依頼し、座学から実技までの講座を持つことにしたが、第１回の座学終了後に新型コロナの第２波が到来したことから感染委員会の指示により外部講師の勉強会は中止となってしまった。

別紙１

## 職員勤務体制

| | 機能訓練２ | 機能訓練１ | リハA | リハB | リハC | 介護フリー | 看護師<br>リハ | 看護師<br>外介 | 介護１ | 介護２ | 介護３ | 介護４ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9:45 | 送迎<br>バイタル<br>髭剃り<br>トイレ誘導 | 送迎<br>バイタル<br>髭剃り<br>トイレ誘導 | 送迎<br>バイタル<br>髭剃り<br>トイレ誘導 | 送迎<br>バイタル<br>髭剃り<br>トイレ誘導 | 送迎<br>バイタル<br>髭剃り<br>トイレ誘導 | 送迎<br>バイタル<br>髭剃り<br>トイレ誘導 | 送迎 | 送迎<br>バイタル<br>髭剃り<br>トイレ誘導 | 送迎<br>バイタル<br>髭剃り<br>トイレ誘導 | 送迎<br>バイタル<br>髭剃り<br>トイレ誘導 | 送迎<br>バイタル<br>髭剃り<br>トイレ誘導 | 送迎<br>バイタル<br>髭剃り<br>トイレ誘導 |
| 9:55 | 誘導 | 誘導 | 誘導 | 誘導 | 誘導 | 作業準備 | バイタルチェック<br>ノートチェック<br>薬チェック<br>クリアケース確認 | 入浴準備 | 入浴準備 | 朝の挨拶 | 作業準備 | 入浴準備 |
| 10:00 | 物療<br>関節可動域訓練<br>振り分け後に実施<br>できているか<br>チェック | 関節可動域訓練及びウエイトトレーニング、生活機能動作訓練 | 体操<br>（補助） | マット・エルゴ・歩行訓練 | | コップ洗い<br>喫茶誘導<br>口腔ケア<br>コップ準備 | | 入浴介助<br>処置 | 入浴介助<br>外介助<br>中介助 | ①ストレッチ<br>②デュアルタスク<br>トレーニング<br>③ウエイトトレーニング | 作業療法<br>お茶の準備<br>休憩振分け | 入浴介助<br>外介助<br>中介助 |
| 10:45 | | | 重りの運動<br>（補助） | | | | | | | | | |
| 11:25 | 生活機能動作訓練 | | 車椅子等立ち上がり組 | 車椅子等立ち上がり組 | 個別 | 下肢筋力<br>コグニサイズ<br>（踏み台） | 運動組全体の様子をみて補助する | | | 下肢筋力<br>コグニサイズ<br>（踏み台） | | |
| 11:30 | トイレ誘導 | トイレ誘導 | トイレ誘導 | トイレ誘導 | トイレ誘導 | トイレ誘導 | | | | トイレ誘導 | | |
| 12:30 | 昼食準備 | 休憩<br>11：30～<br>12：30 | 休憩時間は休憩の振り分けによる時間<br>昼食準備<br>口腔ケア<br>ノート記入 | 休憩時間は休憩の振り分けによる時間<br>昼食準備<br>口腔ケア<br>ノート記入<br>リハBは<br>嚥下体操 | 休憩時間は休憩の振り分けによる時間<br>昼食準備<br>口腔ケア<br>ノート記入 | 休憩<br>11：30～<br>12：30 | 昼食準備<br>与薬 | 休憩<br>11：30～<br>12：30 | 1人は昼食準備<br>1人は入浴 | 休憩<br>11：30～<br>12：30 | 昼食準備 | 昼食準備 |
| 13:35 | 休憩<br>12：30～<br>13：30 | 口腔ケア<br>ノート記入 | | | | 口腔ケア<br>コップ洗い | 休憩<br>12：30～<br>13：30 | 再検<br>与薬<br>経管片付け | 休憩<br>12：30～<br>13：30 | 口腔ケア<br>ノート記入 | 休憩<br>12：30～<br>13：30 | 休憩<br>12：30～<br>13：30 |
| 13:40 | 誘導 | 誘導 | 誘導 | 誘導 | 誘導 | 作業準備 | 誘導 | 入浴準備 | 入浴準備 | 作業準備 | 誘導 | 入浴準備 |
| 13:45 | 物療<br>関節可動域訓練<br>振り分け後に実施<br>できているか<br>チェック | 関節可動域訓練及びウエイトトレーニング、生活機能動作訓練 | 体操<br>（補助） | マット・エルゴ・歩行訓練 | | 牛乳温め<br>休憩室掃除<br>コップ洗い<br>おやつコップ準備 | 重りの準備<br>リハ振分<br>歩行訓練<br>エルゴメーター<br>お茶の準備 | 入浴介助<br>処置 | 入浴介助<br>外介助<br>中介助 | 作業療法<br>お茶の準備<br>トイレ誘導 | ①ストレッチ<br>②デュアルタスク<br>トレーニング<br>③ウエイトトレーニング | 入浴介助<br>外介助<br>中介助 |
| 14:30 | | | 重りの運動<br>（補助） | | | | | | | | | |
| 15:10 | 生活機能動作訓練 | | 車椅子等立ち上がり組 | 車椅子等立ち上がり組 | 個別 | 下肢筋力<br>コグニサイズ<br>（踏み台） | 運動組全体の様子をみて補助する | | | | 下肢筋力<br>コグニサイズ<br>（踏み台） | |
| 15:15 | 記録<br>書類整理 | トイレ誘導<br>おやつ準備 | トイレ誘導<br>おやつ準備 | トイレ誘導<br>おやつ準備 | トイレ誘導<br>おやつ準備 | おやつ準備 | トイレ誘導<br>おやつ準備 | | | | トイレ誘導<br>おやつ準備 | |
| 15:35 | | おやつ | おやつ | おやつ | おやつ | おやつ | 記録<br>ノート記入 | | | おやつ | おやつ | |
| 16:00 | | 学習採点 | 学習採点 | 学習採点 | 学習採点 | 学習採点 | | 掃除 | １人学習<br>採点<br>1人ノート<br>準備<br>トイレ誘導<br>帰宅準備 | 学習療法 | 学習採点 | 記録 |
| 16:35 | | トイレ誘導<br>帰宅準備 | トイレ誘導<br>帰宅準備 | トイレ誘導<br>帰宅準備 | トイレ誘導<br>帰宅準備 | 厨房片付け | トイレ誘導<br>帰宅準備 | | | 頭の体操　帰りの挨拶 | トイレ誘導<br>帰宅準備 | |
| | 掃除<br>送迎<br>明日の準備 | 掃除<br>送迎<br>明日の準備 | 掃除<br>送迎<br>明日の準備 | 掃除<br>送迎<br>明日の準備 | 掃除<br>送迎<br>明日の準備 | 掃除<br>送迎<br>明日の準備 | 掃除<br>送迎<br>明日の準備 | 掃除<br>送迎<br>明日の準備 | 掃除<br>送迎<br>明日の準備 | 掃除<br>送迎<br>明日の準備 | 掃除<br>送迎<br>明日の準備 | 掃除<br>送迎<br>明日の準備 |

# 令和２年度　指定居宅介護支援事業所南風　事業報告

1.　基本方針

例年の基本方針通り、地域の要介護者等やその家族が住み慣れた土地で安心して生活を送ることができるように適宜必要な支援を行ってきた事で、居宅介護支援の実績数は（表１）の通りとなりました。

居宅介護支援実績数（表１）

| | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 要介護 | 230 | 225 | 239 | 240 | 250 | 243 |
| 要支援 | 34.5 | 38 | 42.5 | 43 | 43 | 43.5 |
| 合計 | 264.5 | 263 | 281.5 | 283 | 293 | 286.5 |

| | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 要介護 | 236 | 235 | 238 | 245 | 246 | 240 |
| 要支援 | 45 | 44.5 | 44.5 | 44 | 43.5 | 45.5 |
| 合計 | 281 | 279.5 | 282.5 | 289 | 289.5 | 285.5 |

2.　組織体制

・前半までは、常勤９名非常勤１名で居宅介護支援を行なってきましたが、年度途中の異動や産休・育休明けの職員の延期、年度末での退職と職員の変動が多い一年となりました。その中でも何とか新規は断ることなく受け入れを続けてまいりました。
その結果、第二デイサービスへの貢献は出来ましたが、南風デイサービスの利用者さんは、入所や入院などが多く、なかなか貢献までは出来なかった状況です。
今後も、南風のデイサービスについてはこの状況が続くと考えられますが、引き続き貢献できるようにしていきます。
令和３年度は、産休・育休明けの職員の復職があるものの、一人退職したため、人員は一人減のままのスタートとなります。
しかし、報酬改定により、介護支援専門員一人当たりの受け入れ人数も増やすことができるため、職員の負担状況を見ながら新規の受け入れができるようにします。
新規受け入れ確保のため、病院相談室や地域包括支援センターへの営業活動も引き続き行っていくようにしたいと思います。

・令和２年度はほとんどの研修が中止となってしまったが、令和３年度はオンラインでの研修が主流となってくると思います。オンラインでの研修参加を行ない、オンラインに慣れるようにしていきたいと思います。

・事業所内では個別ケース報告会を週１回開催する事で情報共有に努め、チームとして支援体制を強化していく。
・月に１回の事例検討会の開催を継続し、ケースの関わり方やケアマネ自身の振り返りの機会を作る。
・南風全体の勉強会オンライン開催できるように、提案や研修準備の協力もできるようにしたい。
・在宅部門で連携が取れるような仕組み作りも検討していく。

３．地域交流、貢献活動等

・令和２年度は地域との交流もほとんどなかったため、令和３年度は方法の検討が必要と思われます。地域住民を始め、自治会や民生委員、ボランティア等地域福祉関係者との連携を継続していく。また、「元気で過ごそう会」「バザール南風」がいつでも再開できるように様子伺いなどの声かけを行なっていくようにしていきたい。

４．その他

・　主任介護支援専門員４名を有する大規模事業所の責務をして、行政や地域包括支援センター、介護支援専門員連絡協議会南区支部等各組織と連携し、地域福祉の向上に努めます。
・　地域包括支援センターとの連携も強化し、特定事業所加算を取得している居宅介護支援事業所として、困難ケースの受け入れや対応方法の検討も居宅内で行いながら対応できるように努めていく。
・　施設内職員の介護支援専門員の取得率が上がるよう勉強会などの実施にも努める。
・　困難ケースが増えていく中、職員一人で抱え込まないように常に状況の確認をし、相談にのれる体制を作っていく。
・　ライフワークバランスが取れるように体制つくりを行なっていく。
・　介護保険報酬改定があるため、情報収集・発信ができるようにしていきたい・

# 令和２年度　地域包括支援センター三和　事業報告

**①圏域の概要（令和元年 10 月 1 日現在）**

| 地区名 | 人口 | 15～64 歳 | 65 歳以上 | 75 歳以上 | 高齢化率 |
|---|---|---|---|---|---|
| 飯田地区 | 12,809 | 8,014 | 3,129 | 1,571 | 24.4% |
| 白脇地区 | 21,860 | 13,429 | 5,409 | 2,742 | 24.7% |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 合計 | 34,669 | 21,443 | 8,538 | 4,313 | 24.6% |

＜圏域の特徴＞

高齢化率については市内全域（27.38%）と比べ比較的低い水準ではあるものの、圏域内には複合的な課題を持つ世帯が多い中田島団地や高齢化率 40%前後の地域も存在する。

地域力としては地区社協や地区民協が非常に活動的で、サロンやシニアクラブ等数多く存在している一方で、新規参加者を勧誘することの難しさや運営企画者の負担、また後進の育成等課題も多い。

また地域全体としては、津波被災予定地区であり、これからも防災減災に力を入れていく必要がある地区である。

**②活動目標**

・「断らない相談」窓口を目指し、多くの職種や機関との連携強化に努める。またアウトリーチ活動を継続的に行うことで課題の早期発見、早期対応を行い、地域に根差した地域包括支援センターを目指す。
・ＡＣＰを始めとした高齢期に有益な情報を提供し、より安心して生活できる地域を目指す。
・防災士を中心に防災についての出張セミナーを継続的に行い、防災意識の高い地域を目指す。

**③今年度の重点取り組み事項**

・多くの職種や機関との連携強化を図り、各種研修会、交流会等をコーディネートする。
・アウトリーチ活動として、サロンやシニアクラブ等地域団体への積極定なアプローチを行う。また例年通り『75 歳訪問』『85 歳訪問』を継続的に実施する。
・「ＡＣＰ（人生会議）」等老いへの備えについて理解を深めるため、専門講師を招き、より充実した家族介護者教室を実施していく。
・より安心して暮らせる地域を目指し、地域課題を発見し、不足している社会資源の創出に努める。
・防災士を中心に、わかりやすい防災セミナーを繰り返し行うことで、地域の防災意識を高める等啓発活動を行う。

**④実施状況**

| 事業名 | | 実施計画 | 実施計画に対する達成状況 |
|---|---|---|---|
| 包括的支援 | ①総合相談業務 | ①『７５歳訪問』『８５歳訪問』や出張相談所「ちょこっと相談（2 か所）」「いきがい相談（1 か所）」の継続実施。<br>②「断らない総合相談窓口」を目指し、「みなみ区Ｌｏｖｅ」等多機関との連携促進を図る。 | ① 例年通りに『７５歳訪問』『８５歳訪問』を予定したが、コロナ禍の影響から訪問が十分にできず、ポスティング主体の活動となった。<br>・７５歳訪問対象者２７３件中、実施６１件。<br>・８５歳訪問対象者２２５件中、実施０件。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業 | | ③地区社協や地区民協との顔の見える関係構築を促進し、またシルバーやサロン等地域の各団体へより充実した企画の持ち込みを行うことで、地域に根付いた総合相談を行う。<br>④ホームページ、ブログの更新頻度を維持し、介護者世代への周知を図る。<br>①②③④を行うことで地域への周知活動や啓発活動を行うとともにネットワークを構築し潜在ニーズの早期発見、早期対応を目指す。<br>【提案企画リスト】<br>（1）「防災三匹の子豚」防災士<br>（2）「コグニサイズとフリフリグッパー」地域包括支援センター職員<br>（3）「いきいき体操＋α」いきいきトレーナー<br>（4）「ノルディックウォーク教室」静岡県ノルディックウォーキング協会<br>（5）「老後のお金」ファイナンシャルプランナー<br>（6）「葬儀とお金」出雲葬祭<br>（7）「懐メロ歌って認知症予防」南風バンド<br>（8）「認知症サポーター養成講座」キャラバンメイト<br>（9）「介護っていくらかかるの？（寸劇）」地域包括支援センター職員<br>（１０）「ＡＣＰもしばなゲーム」地域包括支援センター職員<br>⑤センター内ミーティングを月２回実施し、職員間の情報共有を行うとともに、事業計画や立案等を協働で行い、チーム力向上を目指す。<br>⑥初回相談、訪問は必ず２人対応とし、より良い初動対応を行う。 | 「ちょこっと相談（２か所）」「いきがい相談（1 か所）」は計４５回実施。<br>② コロナ禍の影響から、当初予定していた内容での実施ができず、２回のみの開催となった。次年度は、南区３包括が協力して、リモート開催を検討していく。<br>③ 地域のサロンやシニアクラブの活動が、コロナ禍の影響から活動を中止する団体が多かったが、要望がある団体に対しては可能な限り活動協力をした。活動協力回数計１４回。<br>・活動協力内容　≪抜粋≫<br>コグニサイズ、いきいき体操、終活、誤嚥、防災、介護の費用等。<br>④ 介護者世代や地域住民等への周知を目的に、ブログの更新を計２９回実施した。<br>⑤ 月２回のミーティングを定期開催し、予定の確認や活動の進捗状況の報告、研修報告、事業計画の立案等を協働で行った。また、毎日の朝礼等で情報共有を適宜行い、サービスが停滞することが無いように配慮した。<br>⑥ 初回相談は、職員２名以上で対応し、複数の視点から支援方法を検討した。 |
| | **②権利擁護業務** | ①必ず行政等複数機関で支援を行い、適切な支援を目指す。また、成年後見人制度の申し立て直接支援件数は２件を目標とする。 | ① 成年後見制度の申し立てについては、行政や弁護士事務所、司法書士事務所等と協力して支援活動を行うことができた。直接支援ケースは３件。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | ②成年後見制度や詐欺等消費者被害の周知については、家族介護者教室を通し啓発活動を行っていく。 | ② 家族介護教室「悪徳商法の被害に遭わないために」にて、外部講師が消費者被害について講話をした。その他にも、職員が地域のサロン活動で消費者被害について講話をして注意喚起を行った。 |
| | **③包括的･継続的ケアマネジメント支援業務** | ①「ケアマネ情報交換会フレッシュ三和クラブ」の継続実施と周知活動の実施。チラシを用いて、更なる周知活動を行う。<br>②社会資源マップには維持管理は必要であり、今後も地域のケアマネジャーと協働で活動を継続していく。<br>③「インフォーマルサービスを見学しよう！」ツアーの開催<br>ケアプランにインフォーマルサービスをより適切に位置付けるために、地域のケアマネジャーをサロン等インフォーマルサービスへ実際に見学、体験できるように支援する。<br>※ジージ・バーバ食堂の見学。<br>※地域のサロン見学。<br>④演習・研修の各種開催を主任介護支援専門員と協働で企画・準備・開催を目指し、そのコーディネートを行っていく。 | ① コロナ禍の影響から、集合形式の取り組みが難しく、「ケアマネ情報交換会フレッシュ三和クラブ」が毎月開催できず、計２回の開催となった。次年度は、リモート開催を検討していく。<br>② コロナ禍の影響から、集合形式の取り組みが難しく、「社会資源マップ」の維持管理の活動が地域のケアマネジャーとできなかった。<br>③ コロナ禍の影響から、見学予定先が外部団体を受け入れることが難しく、「インフォーマルサービスを見学しよう！」ツアーの実施ができなかった。<br>④ 「障がい」と「８０５０問題」をテーマして研修会を企画したが、コロナ禍に配慮して、研修会を中止した。次年度はリモート開催を含めて検討していく。 |
| | **④第1号介護予防支援事業** | ①より適切なアセスメントを実施するため初回は複数の職員で対応する。<br>②対象者自らサービスの選択をできるように、心身の状況に応じたサービスを複数提示する。<br>③指定介護予防支援事業のプランを含め、職員 1 人当たり 20 件以下とする。 | ① 初回相談は、職員２名以上で対応し、複数の視点から支援方法を検討した<br>② 対象者の希望等を確認し、複数の職員で支援方法を検討し、対象者が選択できるように、支援に必要なサービスを複数提示した。<br>③ 職員ひとりあたり、平均１１．８件（元気はつらつ教室利用者含む）を担当した。地域の居宅介護支援事業所と連携できており、再委託を推進した。しかし、居宅介護支援事業所の多くが対応範囲の限界に達しており、再委託が難航しているため、今後は直接支援を行うケースが増えていくことが想定される。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ⑤在宅医療・介護連携業務 | ①浜松市医師会との合同研修会は南区高齢者相談センター（新津、芳川）と浜松市介護支援専門員連絡協議会南区支部と協働で開催する。<br>②歯科医師会との合同研修会は、浜松市健康増進課と協働で開催する。<br>③多職種連携情報交換会「みなみ区Ｌｏｖｅ」は、今後参加を呼びかけ、より多くの機関との顔の見える連携づくりを目指す。 | ① コロナ禍の影響から、集合形式の合同研修会が開催できず、浜松市医師会主催のリモート研修に、運営側として携わった。<br>② 実施なし。<br>③ コロナ禍の影響から、当初予定していた内容での実施ができず、２回のみの開催となった。次年度は、南区３包括が協力して、リモート開催を検討していく。<br>また、多職種連携の観点から、領域の異なる多職種連携による在宅医療・介護連携推進事業に年間通して参加をした。 |
| | ⑥生活支援・介護予防基盤整備事業 | ①生活支援体制づくり協議体に関しては、地域ケア会議や「社会資源マップづくり」等、各活動で挙げられた課題の情報提供を行い、新たな社会資源創出のための活動支援を行っていく。<br>②「きらきらクラブ」「さんさんクラブ」は今後も同様に支援継続していく。また、ロコモ指導員やいきいきトレーナーの資格を活かし、地域の各サロンへの出張教室を開催していく。<br>③三包括合同でロコトレ普及員交流会を開催し、ロコトレグループの質の向上を図る。<br>④地域のサロン活動等に付属していないロコトレサロンへ出向き、交流を深めるとともに、適宜指導等行う。 | ① 生活支援体制づくり協議体の活動として、「居場所マップ」の作成を主なテーマとして、2 か年計画で取り組むことになり、今年度は「居場所マップ」の目的や活用方法を議論した。次年度は「居場所マップ」を具現化していく。<br>② 運動クラブである「きらきらクラブ」「さんさんクラブ」は、コロナ禍の影響から休止をした期間があった。しかし、参加者の強い要望で再開をし、継続的な支援をした。<br>③ ロコトレサロンの新規団体は５か所。例年実施している「普及員の集い」は、コロナ禍の影響を受けて実施できなかった。<br>④ 地域のサロン活動等に付属していないロコトレサロンについては、新規団体を中心に指導等を行った。 |
| | ⑦認知症施策の推進業務 | ①認知症サポーター養成講座は、地域のサロン等へ呼びかけを行い、３回/年実施を目標とする。<br>※はままつあんしんネットワークを対象とした認知症サポーター養成講座開催を目指し調整を行う。<br>②認知症初期集中支援チーム３件/目標。<br>③オレンジシールを利用している本人、家族の交流会 | ① 認知症サポーター養成講座は計３回実施（依頼２件+企画１件）。また、キャラバンメイト交流会を実施。<br>② 認知症初期集中チームの活用は計１件。<br>③ 家族介護者交流事業として、オレンジシール利用者やその家族等を対象とした交流会を計１回実施。「徘徊」を含めて、在宅で介護するうえで「困って |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | を実施。（家族介護者交流事業） | いること」を共有した。 |
| | ⑧地域見守り支援に関する業務 | ①見守りネットワークを対象に認知症サポーター養成講座を行い、認知症に関する理解促進を図る。<br>②徘徊高齢者早期発見事業にて徘徊高齢者への声掛け訓練を行い、地域への啓発活動とする。 | ①　南区３包括が協働して、見守りネットワークを対象に「認知症高齢者のための地域見守り支援に関するアンケート」を実施した。また、それらを対象とした認知症サポーター養成講座を企画したが、コロナ禍の影響から実施できなかった。<br>②　今年度は、南区の徘徊高齢者発見事業を包括新津が担当し、それに協力した。 |
| 多職種協働による地域支援ネットワークの構築（地域ケア会議） | | ①多職種連携情報交換会「みなみ区Ｌｏｖｅ」を継続し、今後も連携強化を図る。<br>※参加者の意見を聞き取り、年間予定を作成する。<br>②個別ケース地域ケア会議を繰り返し行い、共通する課題を見出し、研修等につなげていく。<br>③見守りネットワーク強化を図り、ケア会議を実施し、認知症サポーター養成講座実施の必要性を計る。 | ①　コロナ禍の影響から、当初予定していた内容での実施ができず、２回のみの開催となった。次年度は、南区３包括が協力して、リモート開催を検討していく。<br>②　ケア会議８件実施。<br>〇個別５件<br>・高次機能障害の要援護者を介護する家族の悩み<br>・親子で要介護状態であり、キーパーソン不在のケースを支えていくためには<br>・認知症高齢者夫婦の支援について<br>・要介護高齢者と引きこもりの娘との在宅生活をさせるには<br>・キーパーソンが障害を有する場合の今後の支援<br>〇圏域３件<br>・地域での見守りネットワーク構築及び強化<br>・生活保護受給者に対する支援に関し、関係機関の連携強化について<br>・困難事例に対する支援に関し、関係機関との連携強化方法について<br>③　南区３包括が協働して、見守りネットワークを対象に「認知症高齢者のための地域見守り支援に関するアンケート」を実施した。また、それらを対象とした認知症サポーター養成講座を企画したが、コロナ禍の影響で実施できなかった。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 指定介護予防支援事業 | | ①より適切なアセスメントを実施するため初回は複数の職員で対応する。<br>②対象者自らサービスの選択をできるように、心身の状況に応じたサービスを複数提示する。<br>③指定介護予防支援事業のプランを含め、職員 1 人当たり 20 件以下とする。 | ① 初回相談は、職員２名以上で対応し、複数の視点から支援方法を検討した<br>② 対象者の希望等を確認し、複数の職員で支援方法を検討し、対象者が選択できるように、支援に必要なサービスを複数提示した。<br>③ 職員ひとりあたり、平均１１．８件（元気はつらつ教室利用者含む）を担当した。地域の居宅介護支援事業所と連携できており、再委託を推進した」。しかし、居宅介護支援事業所の多くが対応範囲の限界に達しており、再委託が難航しているため、今後は直接支援を行うケースが増えていくことが想定される。 |
| 任意 | 家族介護教室 | （1）「権利擁護について」くらしの相談センター講師調整<br>（2）「防災士による防災セミナー」防災士<br>（3）「老後のお金」ファイナンシャルプランナー<br>（4）「葬儀とお金」出雲葬祭<br>（5）「今更聞けない介護保険　介護っていくらかかるの？」地域包括支援センター職員<br>（6）「認知症と薬」薬剤師講師調整中<br>（7）「転倒予防と歩行訓練について」静岡県ノルディックウォーキング協会<br>（8）「認知症予防と音楽療法」南風バンド調整中 | ○家族介護教室３件実施。<br>・「悪徳商法の被害に遭わないために」（消費者被害）<br>・足のむくみで困っていませんか？～なんでむくむの？自分でマッサージをしてみよう～<br>・老後と葬式のお金<br><br>その他については、企画はしたが、コロナ禍の影響から実施ができなかった。 |
| | 家族介護者交流事業 | ①オレンジシールを利用している方を中心に、特に介護の手間がかかる「徘徊」についての想いを共有するための食事会を実施していく。<br>②高齢の利用者や介護者の免許返納、通院介助等運転技術について、その危険性や最新技術を学ぶとともに、介護について想いの共有を図り、交通教育センターレインボーにて体験会を実施。 | ① 家族介護者交流事業として、オレンジシール利用者やその家族等を対象とした交流会を計１回実施。「徘徊」を含めて、在宅で介護するうえで「困っていること」を共有した。<br>② ３包括合同開催を企画したが、コロナ禍の影響で実施できなかった。 |
| | 地域ケアマネジャー演習事業 | ・地域の主任介護支援専門員と協働で演習事業を企画、 | 「障がい」「８０５０問題」をテーマとした演習事業を |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 準備、開催。<br>（提案内容）障がいサービスを導入したケアプランの作成演習。 | 企画したが、コロナ禍の影響で実施できなった。 |
| その他 | | ・生活支援体制づくり協議体を中心に、居場所づくりについて進めてく。協議体メンバー交代の際に、実際にボランティイアとして活動できる中心メンバーを紹介していく。 | 生活支援体制づくり協議体の活動として、「居場所マップ」の作成を主なテーマとして、2か年計画で取り組むことになり、今年度は「居場所マップ」の目的や活用方法を議論した。次年度は「居場所マップ」を作成することで、地域の課題が明確になると思われるため、解決に向けた動機付けに発展していく。 |

**⑤次年度に向けての課題**

【反省】
・アウトリーチとして独自企画の７５歳８５歳訪問が、コロナ禍の影響で訪問時期や訪問方法の調整ができず、例年通りの実施ができなかった。サロン等地域団体への企画提案や活動協力は、開催状況と比例する形となり、計１４回に留まった。その他の活動として、南区民児協地区会長定例会（月１回）、地区民児協（月１回または２か月に１回）、地区社協（月１回）の頻度で参加して地域関係者との関係維持に努めた。家族介護教室は企画をしたものの、実施回数が３回に留まり、コロナ禍の影響を強く受けた形となった。
・コロナ禍という今までの経験のない状況のなか、社会的な制約が増え、地域包括支援センターとしての本来の活動が十分にできなかった。しかしながら、今年度培ったってきたコロナ禍における活動の在り方を発展させ、次年度は７５歳８５歳訪問の再開、サロン等地域団体への働きかけ、家族介護者教室等の企画実施を例年の水準に近づけていく。また、リモートを活用してのネットワークづくりを行っていく必要性を感じた。

【令和３年度目標】
・「断らない相談」窓口を目指し、多くの職種や機関との連携強化に努める。またアウトリーチ活動を継続的に行うことで課題の早期発見・早期対応を行い、地域に根差した地域包括支援センターを目指す。
・ＡＣＰ（アドバンス・ケア・プランニング）を始めとした高齢期に有益な諸施策、サロン・シニアクラブ等の地域活動、ＮＰＯや民間企業等の取り組みを周知・提供し、現在の生活の充実と今後の生活が安心できる地域を目指す。
・地域住民の意欲に則しながら、サロン・シニアクラブ等の地域活動の後方支援を行い、コロナ禍においても地域力の維持・向上を目指す。

# 事業報告の附属明細書

令和２年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細は作成しない。

社会福祉法人ほなみ会